
I s a y U (上)

森本 誠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

I say U (上)

【NNコード】

N4848D

【作者名】

森本 誠

【あらすじ】

一身上の都合により大神莉華（おおがみりか）AV女優・香々美織緒（かがみおりお）をフった、主人公・森本誠（もりもとまこと）。その後間もなく、近い将来死ぬ運命にある女子高生・末松紗唯（すえまつさゆい）に出逢う。不運に弄ばれながらも幸運を信じるミドルティーン。運命にからかわれているから神を信じない三十路前。ふたりの恋の行方は……？性と死をテーマに、自称・口語文学の旗手がギヤグ満載でおくる感脳＆官能的感動巨編！えろくてせつない、ファーストラブストーリー。

Episode

スタート

Windowsの終了

電源を切れる状態にする

OK

文書1は変更されています。保存しますか？

「大好きなマウスがやんと」

Click

Windowsを終了してしまいます

…… プツつ。

アフロティーテ

最初に付け加えておくが　おれは無神論者だ。
生きるの、つてわけじゃなく……基本的に。

神を全否定しているわけじゃなく、それが願いを叶えてくれる存在として人の心に君臨すると考えられていることに異を唱える。そういう意味では、無信論者と書いたほうが正確かもしれない。信仰がないおれは、アヤしい宗教団体にハマる心配はないだろう。それでも、ずっと期待していた。

何かがおれを……おれを取り巻く環境が変わってくれることを。愛と美の女神に嫌われていることは　生まれた瞬間から、既にわかつっていたことだ。

今さら驚くことじやない。

ただ……こんな悪戯いたずらをされるとは、予想だにしなかった。失恋が、これほど虚しいものだなんて……いつそのこと、恋心なんて芽生えない今までいたほうが、幸せだったのかもしれない。だから神は、お節介にも叶わぬ恋をプレゼントしてくれたのか。

孤独は、淋しくはなかつた……と言つたらウソになる。

しかし、耐えられないほどじやなかつた。

女のいない人生を歩むことに抵抗はあつても、人生の全てが女ではないと割り切っていた筈はずだった。

そう　女のいる人生の素晴らしさを知る機会さえ訪れなければ

……。

恋愛は、依存症だ。一度でもハマると、一生抜け出せない。気付かぬきや幸せなことなんて、世の中には沢山たくさんある。

この不況だつて　数字にしか目が向いていないから、開示され

た情報の全てが絶望的に感じるんだ。

殆ほとんどの国民が本質を理解していないから、何も改善されない。

暗愚な人間が……ちつちやい人間が、背伸びをするもんじやない。世の中には、変われる人間と変われない人間がいる。

肉体じゃなく、精神面で。

それは先天的性質であつて、環境によるものではない。自分が変わる切つ掛けになつた恩人と出逢えた人には、元々変わる素質が備わつていたということになる。

素質のないやつにはそういう出遭いが訪れないか、若しくは……誰かに影響を与えるような偉人に出会つても、その凡人に魅力を感じないかだ。

「自分が変わらなければ、周囲の評価は変わらない」

そういうセリフを簡単に吐ける人間には、変われないマイノリティの心を動かすことはできない。

……何をやっても無駄だ。

運命は変えられない。

今の自分が嫌いで、変わりたいのに 現時点において変われないやつは、自分がいつか変われる人間であると思い込むことしかできぬ。

思うことを忘れなければ、まだ救いはある。

と、思い込んでいる。

だからおれも、そつち側の強い人間だつたらいいなあと思つて……

……こんなおれが、求めるべきじやなかつた。

宝石屋にとつては【いいお客様】になつたかもしれないが……。

嘘か真か、誰にでも人生には3回、モテ期なるものが用意されているらしい。

とりあえず1回……と半分くらいは、こんなおれにも例外なくやつてきた。

モテ始めたのは、ダイヤモンドを手に入れてからだたな。

IFだとかハート＆キュー・ピットだとか……価値が全くわからないうが、これだけは何となくわかる。

「女の大半は、宝石や貴金属が好き」

後悔の元凶は、そこにあるのかもしれない。

取つ掛かりにミテクレだけでもと思い、貴顕紳士を装つてはみた

もの……見掛け倒しに終わつた。

変革の第一歩のつもりが、右足も左足も動かなかつた。

前のめりで倒れて顔面強打するほど、気持ちだけが前進しようとすることもなかつた。

十六^{トク}＆ジョリーの普通預金通帳には、著しい数字の変化が見られたのだが……。

自分は変わらうとせず、おれを認めてくれる女が現れるのを……ただ待つていた。

そんなおれの前に、理想の女が現れること自体が間違いだつたんだ。

疑うべきだつた。

そうすれば、おれのキズは カサブタすらできない、かすり傷程度で済んでいたかもしれないのに。

……甘かつた。

おれが前世で犯したであらう罪は、裁判長の裁量で定められた時間が解決してくれるものだと考えていた。

初めて告白されて 女子とクラスメート以上の付き合いがなかつた27年8ヶ月が、おれの刑期だつたのだと。

……あまチャンだつた。

おれは未だ、許される運命になら^{まだ}しい。

順序的には、恋愛感情が生まれた後にセックスへ という流れだ。

例外を除けば、の話だが……。

セックスが先なら、こんなに想いを引き摺ることはなかつただろう。

う。

中途半端な大恋愛には、決して発展しないから……。

日本人として生まれたのも、きっと運命だ。

英語圏の人間は「Eの前にはHがある」と言つかもしない。

こんなバリバリの日本語でじゃなく、流暢なアルファベットを用いて。

けど、おれは典型的な現代日本人だけに「アイから始まります」と、田楽さんから座布団一枚もらえるくらいの上手いことを言える。性病を飼つてることを自覚しているにも拘わらず、遊び感覚で伝染し捲れるアホなゴギヤルのような凶太い神経は、おれにはない。おれの心臓が宅急便で運送される時には、間違いない【ワレモノ】のシールが貼られる筈だ。

とにかく……おれの心は、それくらい纖細だ。

お粗末な程に翻弄されるおれを、神々は天空から俯瞰ふかんして嘲笑あざわらつているに違いない。

他に目を向けるべき事態が、今この瞬間に世界中で起こっているだろうに……。

彼らの暇潰しの対象として 実らない奇蹟は、残されたおれの余生で……また何回か訪れるのだろうか？

おれのほうから求める可能性は、限りなくゼロに近い。

この喪失感は、少なくとも……今年いっぱいはヒキズリそうだ。

シーマン

失う物が、増える傾向にあるらしい。

と言づか、それが前兆だつたのかもしれない。

このエピソード自体は……デキなかつたコト以前の出来事だ。

TVがイカれた。

白石美帆のエクボに見惚れていたら、急に画面が落ちた。^{みど}

84年製じゃ、もう寿命だ。

18年なら、よく持つたほうだと思う。

ノーテレビデーで5日間生活したが、あまりにも暇で就寝時間が早くなるため、新調した。

おれが自分で金を出して家電を買うのは、この時が初めてだつた。小学校から付き合いのある田中且行がエイデンのポイントカードを持つてることを思い出し、加算してやると言つて誘い出した。

おれは基本的に、1人でショッピングするタイプの人間だ。

時間の自由が利くし、他人の意見を気にしなくて済む。

その時も……そうすれば良かつた。

デザイン重視のおれに、自称カリスマファイッターは「同じ値段なら大きいほうがいい」と言って、別の商品を勧めた。

店員のおつちゃんよりも積極的で……店員のおねーちゃんに対しても積極的だつた。

なかなか決まらなくて、気分転換も兼ねてパソコンのブースに入つた。

デスクトップを泳いでいる人面魚をクリックしたら、

「あー、ビックリした！」

こつちが吃驚した。

全く、表情変わつてねえし。

面白かったウイークリーランキングベスト1が……ソレだつたと思つ。

半莊終わつて、サイクロン式クリーナーを横田に、同じバラエティ番組だらけの映像空間に戻つた。

4時間迷つた挙句 第一印象の14インチを買つた。

リモコンはダサいけど、本体のデザインとカラーが気に入つたから。

わんきょく
彎曲していないフラットのやつ。

バリアフリーの時代やから。

前の映らなくなつたテレビジョンは19インチだったので、サイズ的にはコンパクトになつた。

ちつちやい良さは、ちつちやいやつにしかわからない。

「もう一度と、オマエの買い物には付き合わない」

1000円で1ポイント 時給6ポイントの仕事は、決断力のある男にとつて退屈過ぎたらしい。

しかし、それ以上の収穫があつたことを……後に誘われた合コンで知つた。

あいつのリストの何番目にあれの名前が載つてゐるのか知らないが、酒が飲めないおれをどうして誘うんだろう。

素面で場を盛り上げられるほど、おれは名脇役じゃない。
バイプレイヤー

と思いながらも、断る妥当な理由を失つたおれは、何ヶ月か振りに 確実に元の取れないワリカンを引き受けた。

ラストシーン

葬式は、好きじゃない。

陰鬱な雰囲気になることだけが理由じゃなく、近所付き合いがその時にだけ発生するから。

殆ど交流のない人たちが、まるで義務であるかのように寄り合つ。村八分っぽいところが嫌い。

実際にそういう廃れた関係かどうかは、他人にはわからないが…。

親はどうか知らないが、おれ自身は近所と交流がない。

畠の裏のおばちゃんは成長したおれのことを知っているようだが、おれの旧い記憶はデスクトップのゴミ箱からも削除されたかのように全く覚えていない。

根っからの八方美人を養子縁組して跡を継がせなければ、森本の家は凋落の運命を免れないだろう。

世間に對して疎隔や疎外感を持つおれには、嫡子の責任は荷が重過ぎる。

十川謙哉も長男だった。

おれと似たようなプレッシャーを感じていたかどうかわからないが……永遠に解放されて、そういう世俗的なものは無縁の世界へ昇つて逝つた。

「魂には絶対数が決まっていて、それ以上増えることも減ることもない。死は終わりではなく始まりであり、新たな可能性を求めて輪廻転生を繰り返す」 現世で誰からも必要とされない命から順番に【救済】されていくのなら納得もいくが、おれの身近にある現実は、そういう説法を信じる気分にはさせない。

補完のためのステップアップとして様々な形あるモノを経由するわけじゃなく、ただ宿主をとかえひつかえするだけの生まれ変わりには全く意味がない。

前世の行いがどうのこうの 一般人と同じように記憶をリセッ
トされている生臭坊主に言われたつて、何の説得力もない。
非戦争主義者の前世が快楽殺人者だってことを否定する物証なん
て、何も有りやしないだろ？

結局……死んだら、それまでなんだ。

命の重さだとか寿命の長さだとか、動物だとか植物だとか 誰
の裁量か知らないが、命の価値は不公平に創られる。

唯一の平等は、全ての生命体にそれぞれ一度だけ生と死が訪れる
ということだ。

人間として生まれた聰い命は、その根源を当然とは認めず、欲張
つて哀しむ。

親や親類が親や親類として存在することは、偶然に過ぎない。
お互いが望んで他人ではなくなる関係こそが、自由に選択できる
必然だ。

あの場所で涙を流す権利があるのは、人生の伴侶になる予定だつ
た五十川忍だけだと思う。

涙腺^{るいせん}が鈍感なおれは、そう思うことで自分を肯定しようとする。
こんなヒネクレモノのおれが死んだ時でも、形式的な儀式に参加
してくれる人はいるだろうか？
まだ生存している他の幼馴染み^{おさなじ}に、ナンボ包むか相談している…
…自分が嫌い。

ペーパーウェーディング

親父と仲のいい年頃の娘 それが異常だと感じるのは、テレビなんかから入つてくる情報の影響もあるが……結局、おれが捻くれた人間だからだろう。

と、素直に非を認める「」ことができなかつたのは……その父娘が、一般家庭とは異質の苦悩を背負つていたからだ。

援交やつてて性病持つてて、しゃべればタメ口、意味不明。風呂に入らず、パンツも替えない、くつさいくつさいヨーロギヤルどこからソースされたのか、普通の女子高生に対するおれの見解は、以前と全く変化がない。

末松紗唯は特別だ。

いや……他の女なんてどうでもいい。

今は……そう思わなきや、失礼だ。

仕事としては成立していなくとも、自己満足のレヴェルで自己表現する人たちのことを、最近ではアピーラーと呼ぶらしい。

……アピーラーじゃない人間なんているのだろうか？

自分を伝えたいというのは人間の素直な欲望だ。

やりたいことが何もないと言つて現実に存在することを絶望している人は、結局のところ自己欺瞞きまんだと思う。

自分の世界を侵されるのが恐くて周りに評価されるのを恐れてるから口に出せないだけで、誰にだつて……おれにだつて、やりたいことはある。

とにかく……自分の娘を含め、そういう人たちのために自己表現の場を与えてやりたいという親心が おれにとつては、今年一度目の奇蹟の始まりになつた。

当然のことながら、奇蹟にはそれなりのインフラが不可欠ででき過ぎたマグレを感じることが、最近では多々ある。

岐阜の親父と岩手の母親が、どういうわけか出会つてしまつた偶

然から話し出したら限^{きり}がないが……必然だなんて思いたくない」とよりも、そっちのほうが量的には多い。
質的には、全くお話にならない。

磐田に住んでいた末松忠が、妻の故郷である名古屋にその拠点を築こうと考えたことも、おれにとつては奇蹟的な偶然で……天国にいる紗唯の母親にも感謝しなければならない。

おれが今の会社で働けているのも、高3の時クラスメートだった織田信乃のおかげで……感謝すべき対象が多過ぎる。

素直じやないおれが、その気持ちを口に出して言つことはないだろうが……。

物件の仲介をする仕事は、人と出会う機会が多い。

利潤を生むためには【幅広く】が重要で、浅い深いはどづでもいい。

より深いほうが拡がる可能性が高いような気がするが……残念ながら、そういうものでもない。

寧ろ 深入りすべきではない。

恋と呼んでいいものかどうかわからないが……初めての失恋で、おれは自分がいかに脆弱^{ぜいじやく}であるかを悟つた。

客は女ばかりじゃないし……可愛いコばかりでもない。

だから、身のほどを知らず面食いなおれが、客と恋愛関係になることは極めて稀で^{まれ} 頭ではわかつても、昔と比べて心は随分と消極的になつたと思う。

古い客 とは言つても、半年程度の付き合いで、彼らには、以前と変わらない対応で^{つと} 努めているつもりだ。

アピーラー支援計画の概要を聴いたおれは、真っ先に名前が浮かんだ 大家平と末松忠を引き合させた。

似たもの同士と言つか……あつたりすんなり、対談は集約した。

……酒が入る大分前に。

そして、本契約の今日 公休日なんでおれには関係ないが……

文化の日の振替休日に、末松忠は最愛の娘を連れて來た。

契約後、速攻で新台に誘われた大人たちは 13時を過ぎても帰つてこなかつた。

探しに行こうかと思ったが、充満した煙草の煙と臭い臭いにスースを侵されたくなかったので、昼メシは一人で摂ることにした。アプローチに出て、パチンコ屋とは真逆の方角を向くと おれの短いストライドでも1分と要しないくらいの距離に、安価の匂いを漂わせるオレンジ色の看板が見えた。

「食べたことがないから食べてみたい」

助かつた。

……いや、助かる見込みは 。

今が【3食食べると1杯タダになるフュア】じゃなかつたのが残念だつた。

正式名称はそんなじやなかつたと思うが……アレは重宝する。ひとりで外食する時のヘビーローテーションだつた。

因みに、おれは吉牛で「並」としか注文したことがない。

そんなことは比べものにならないくらい……残念という言葉では表現できない。

吉野家は混んでいた。席が空いてなかつたので、テイクアウトにした。バリバリの和食なのに「TAKE OUT」つて言つのもなあ……。

中途半端に西洋かぶれつてのも、日本文化つちやあ日本文化っぽいか。

器が丼じやないから牛丼と呼ぶべきじやないのかもしけないが、味に大差はないと思つ。

喻えあつたとしても、おれはグルメじやないし……。

待つていれば【早さ】を、少しくらいは感じなくて済んだかもしえない。

「15かあ……若えな」

「今年、6」

「じゃ、ちゅうどひと回つ違うんだな」

「こくつ?」

「今年、8。キティちゃんとタメ」

「12回違いだよ」

「だから、ひと回りだろ?」

「ひとまわりって、10歳じゃないの?」

「干支がひとつ」

「へーえ」

「寅だろ?」

「わかんない」

「寅だよ」

「ふーん」

ホント?……「不運」としか、言いつづがない。

トヲはネ「科だ。

プロフイールの身長と体重がリンクで表記されているキティちゃんも、たぶん。

そんな繋がりか……牛を買った後の帰り道 狹い路地に続くその脇に、行きには見掛けなかつたダンボールの箱が置いてあつた。上部の蓋を3枚を折り目から切り取つて、残りのひとつを思いつきり外に折り曲げ、そこに桃色のマジックで「じゅりあーのちゃんはいーこなのでいーひとがもらつてください」と綴られていた。
稚拙な文字に……切なる想いを感じた。

「頼んでやろうか?」

しゃがみ込んだ背中におれは声をかけたが、首を横に振つて、紗唯は小さめのショルダーバッグからポケットサイズのデジカメを取

り出した。

「さみしいでしょ？　すぐママがいなくなつたり
細い指が、か細い声を写した。

「紗唯、もうすぐ死んじゃうんだ」

答えは　早かつた。

おれが言葉の裏の意味を考える必要もなく……早過ぎると思った。
オリンパスを仕舞い、立ち上がって振り返ったピンクの唇は、精一杯に大人を演じようと……そのフレーズは、仔猫の哀訴よりも純粋に、おれの薄っぺらな胸に駆けた。

好きになつたら、迷惑ですか？

11月4日　恐らく1周年記念すら一緒に祝えないが……おれ
と紗唯は、出逢つた。

携帯電話を耳に近付けると、電波の所^せ為か気分が悪くなるらしい。

それが切つ掛けで、アナログだつたこのおれも遂に【携帯する受話機】から【ケータイ】に切り替えた。

家の電話は相も変わらず、未だに黒電話だが……。

おれが初めて買った(つて言つても、本体はタダなんだけどね)IDO時代のcdmaOneは、強制的機種変更の対象にはなつていなかから……auに機種変しても有料になつちゃう。

○メールしかできない機種では遠く離れている紗唯と話すことができない。

ノートパソコンでもメールアドレスを取得していないし、○メールすら一度も使つたことがないおれが、携帯を替えたからつとつてメール機能をすぐに使いこなせるとも思えないが……必要に迫られる状況下にある今なら、きっとこれからグローバルスタンダードに馴染むことができるだらう。

今売り出されている携帯の中で、メールの保存数が一番多いという理由で D504iを買った。

ケチなはずのおれが、30ヶ月使用して貯めた割引ポイントを捨てて……信じられない。

最初のアルファベットはメーカー名を表していて、Dは二三菱のことうらしい。

三つの菱形をダイヤモンドに見立てて、その頭文字のDだそうだ。どうしてMじゃなくてDなのかと店員に訊くと、また同じセリフが返ってきた。

「ですからね、お客様」

おれが訊きたいのはそんなことじゃなくて……まあいい。

それを知つたところで、おれがミシビッサー(おれ造語・三菱をこよく愛するコーナーの総称)になるわけでもねえし……。

価格でもデザイントルーチンでなく、機能性オンラインで即決する買い物なんて……まあ、デザインはそこそこいいんだけどね。

こんなスピードィなショッピングは、今までの優柔不断なおれでは考えられない。

田中旦行には、申し訳なく思つてゐる。

YAHOO! キャンギャルとの談合の隙ひまを与えなかつたから……。

電波という様式は、いろいろと障害がある。

ペースメーカーに支障を来たす恐れがあるからには駄目とか……。

だから、電波に代わる全ての人に無害な【何か】が発見されなければ、本当の意味での癒しは訪れないんじゃないだろうか？

殆ど活かせない機能を追加するのもいいが、特定の人に便利なではなく、バリアフリーツールとして安心して誰もが利用できるケータイを追求することこそが、しゃうさん賞讃えいちされるべき叡智である。

関係者各位 健闘（検討）を祈る。

こんな小さな商品なのに、どうして取扱説明書はこんなにも分厚いんだ？

そう感じるのは、やはり今のおれにとって、どうでもいい機能が備わり過ぎているからだろう。

カメラが付いてたら、もっとページ数が多いんだろうなあ、きっと。

全機能を使いこなせるまでは、携帯電話の取扱説明書を携帯しなければならない。

……何とも理不尽な。

おれはただ、紗唯とスムーズに【会話】がしたいだけなのに……。トリセツも然ることながら、悩みに悩んで……これは優柔不断な性格とは何の関係もなく、おれに文才がないだけの話で……漸く、自分の名詞の裏に手書きで控えておいたアドレスにメールした。購入してから……4時間が経っていた。

返事は 早かつた。

^○^

11月5日 おれの人生初メールは、クロヤギさんに食べられることがなく……送信も着信も、無事に届いた。

内装の打ち合わせ等々……平成6年式のカローラを運転して、末松忠が磐田から下道でやって来た。

当然のことながら、紗唯を助手席に乗せて。

途中で脇見渋滞（すれ違いざまに事故現場を見物するため、スピードを緩めることによって生じる渋滞）に巻き込まれたそうだが……

1週間記念は、滞りなく迎えることができた。

ちゃんと毎日下着も替えるし、シャワーも浴びる 先週と同じ服装だったが、そこら辺の汚ギャルと違つて、紗唯はいい匂いがした。

……この表現がオヤジ臭い。

何気にも、ノネナルとか分泌してるかもしねれない。

ナマ足ブーツの臭いを嗅いだことがないので何とも言えないが……

と言ふか、比較したくもない。

絶対評価だとか相対評価だとか……義務教育をとつぐの昔に卒業しているおれにとっては、近年の通知表問題なんてどうでもいい話だ。

猫は、人間の7倍のスピードで老けるらしい。

20倍としても、紗唯より……。

ジュリアーノは、未だに ダンボールハウスに住んでいた。

どこの世界も、景気は相変わらず横ばい若しくは悪化傾向にあるらしい。

しかし、設備投資だけは若干回復されたと言えるだらう。

まだまだ 未来は、捨てたもんじゃない！

以前は屋根がなかつたが、露天の上方でミニハムずが踊つていた。

地味な黄土色の外壁に、華やかなピンクの傘が、赤色のビニールテープで固定されていた。

ちょこっとずつリフォームが進んでいく。

「エサを与えないで下さい」と書かれていたのが理由かどうかはわからないが……今のところ、食つには困つていはない様子だった。

出るモノも、ちゃんと出ていた。

……食前の、ちょっとといい話でした。

みんなで、近くのガストでタメシを食つた。

いや……おれにとつては、タメシではなくタダメシか。

ラッキーなことに、改装業者のおやつさんに奢つてもうられた。

もつとラッキーな人は、世の中に大勢いるが……。

一昨年の今日（おととしに今日はねえけど）飲み代を出して……ベロンベロンだつたらしいから、その記憶もアヤシイのだが……年末ジャンボ宝くじで1千万当たつたらしく……その^{げんかつ}験^{けん}担^{かう}ぎだそうだ。そのうちの1%が今年の軍資金に充てられ、その1割は払い戻しが確定していく……とにかく、金は天下の廻りものだ。

この不況下では実感できないが……。

夢を金で買える人間が羨ましい。

おれの夢は……まあ、いい。

昨年の今日（去年にも今日はねえけど）の話はなかつたから、下^{じつせん}一桁が同じなら漏れなく貰える当^{じつせん}籤^{せん}金額を受け取つただけだろう。

「ギャンブルで儲けた金は、ギャンブルに消えていく」昔、誰かが言つてた。

……停滞してゐるよりはマシだ。

消費レヴェルで廻る金と即効性の経済効果を考慮すれば、一人が3億円を手に入れるより百万人に3万円ずつ配つたほうが、利益主義社会にとつては有益だと思うのだが……それじゃあ、企業にとつても個人にとつても有益ではないのだろう。

金額も然ることながら、稀少^{きしやう}価値^{かじゆ}の高い僕倖^{ぼくけい}が魅力なのかもしけ

ない。

「何でも好きなの頼んでいいよ」って言われても、何でも好きなの頼める性格じゃない。

みんなが高価なステーキ系を注文する中で、おれはお手頃価格のセットメニューを指差し、店員の口に「ライスで」と言った。

ドリンクバーを奨められたが、頭をX軸方向に振った。

……一度でいいから「ミディアムで」とか言つてみたい。当然のことながら、おれの注文した料理が一番安かつた。同じ料理だから、紗唯とタイ記録だったが……。

注文を済ませてから、おれと紗唯は移動した。

「大家族スペシャルみたい」

「……子供が1人じゃ、数字獲れねえな」

喫煙席の大所帯は、泡立つジョッキで盛り上がりがつっていた。

「ママが死んでから、ずっとパパとふたりだけだったから……憧れだつたんだあ、こおゆうの」

禁煙席に、コンソメスープが来た。

「再婚してくれたら、家族が増えたのに」

そのセリフの意図は、おれの【先】のことを想定したものだつたのか……この中途半端な認識力が、自己嫌悪の抜本塞源ばくほんそくげんを不可能せしめるんだ。

大人の定義も知らずに大人になろうと髪ひげが生え始め、チン毛がボーボーになつて、調子に乗つて思考力もフサフサにしようとしている。

「そうだね。家族がたくさんいると楽しいね

って返せば、それでいいじゃねえか。

「できるわけねえよ。だつて、愛してたんだぜ」

……言えるわけねえよ。だつて、返しが怖いから。

まるで 2打で沈めれば優勝できる、マスターズ18番ホールのロングパットを打つくらいの心境だ。

全然、心は鎮しそまりません。

家族ぐるみの付き合いでいたことが、結婚願望を抑制させる言い訳のひとつでもあつたが……家族として受け入れられたような呼ば方を、今日のおれが鬱陶しいと感じることはなかつた。

全盛期の若乃花の半分……いや、5分の2くらいか?
めかた
田方的には。

それなのに、っていつのとも変だけど……なぜ紗唯がおれのことを見つかるのか　その理由を訊ねなかつたということは……おれの中にあるのは、恋愛とは違う感情なのかもしれない。

まあ、恋愛に定義なんでものはないけど……それでも、紗唯を愛しことと思う気持ちは、我ながらホンモノだと確信を持つて言える。にも拘わらず……全く記憶がない。

出逢つてから今日まで　おれは紗唯のことを、どう呼んでいただろつ?

「ロザリーネ」じゃなことだけは、確かにと思うけど……。
おこいちゃん、って呼んでいい?

11月11日　おれは「おこいさん」から「おこちゃん」へ、
クラスチェンジした。

シンクロニズム

大家平は、目押しができない。

スロット歴2週間じゃあ無理もないか。
いや、経験じやなく才能かもしれない。

おれも何回か座つたことがあるが、上から下へ流れる図柄を把握する能力に乏しいらしい。

世の中には、二種類いる。

見える者と、見えない者。

おれは、後者。

お化けから将来まで ありとあらゆるもののが見えないまま、今日に至る。

でも、そんなことは関係なく……素人だろうが、勝つ時には勝つ。
結局 運だけだ。

コンピューターで制御された近年のパチンコ及びパチスロは、特にその要素が強い。

30兆円産業にまで成長した業界は、射幸心を煽ると一時騒がれたが、娛樂性もグレードアップして「あのリアナリーチアクションが見れたから負けたけどいいや」的集団催眠で、ギャンブルーモデキどもの脳を確実に支配しつつある。

基本的にやらないおれにとつては、どうでもいいことだが……。

昔（もう10年近く前か）大学行つてた頃は、おれもハマつてた。ちょうど、CR機というのが出てきた時期だ。たま～に大勝ちする日もあるが、トータルでは大損している。

極めるつもりがないおれにとつては、豪勢な暇潰しになつっていた。
あの頃は……人生は暇潰しだと、本気で思つていた。

おれの行動範囲内にあるパチンコ屋は、現在はどうか知らないが
……美しくなかつた。

ヴィジュアル的にという意味だけではなく

タバコが堪らなか

つた。

それ以上に金も貯まらなかつたが……。

「ギャンブルで儲けた金は、ギャンブルに消えていく」昔、誰

かが言つてた。

のを、ついこの間も思い出したような気がするのは気のせいか？

その点、管理人は立派だ。

増えた軍資金を握つて、カジノへ大勝負に出向くわけでもなく、小さな儲けを有る時払い返済に充ててくれる。

貯金を引き出せない日も、残念ながらあるわけだが……。

催促はしないが、頑張つて儲けてくれるとありがたい。

貸主は今日も出勤日だ。

スロットの師匠である借主と一緒に。

……金じゃなくて、部屋のね。

母親らしき女に「ケンタ！」と叱責された少年は、一口齧つたフライドチキンを渋々、妹らしき少女の手に渡した。

類は友を呼ぶ という諭えは、適切じゃねえか……。

白い顎鬚を蓄えた老紳士は、いつの間にか衣替えをしていた。

右手首に引っ掛けている杖が、おれのイメージするサンタクローラスっぽくない。

が……ステッキを振り翳したらプレゼントが現れるという設定だ

と思いつめば、それなりに素敵な物語にはなるか。

昔おれは、映画か何かを観て リチャード・アッテンボローがサンタのおじさんだと、本気で信じていた。

あの頃はおれも無邪氣でええ子やつたのに……。

1ヶ月以上も前だというのに カーネル＝サンダースは、冬を先取りし過ぎだ。

そんなに焦んなよ。

季節が近付けば 取り留めのないようなことでも、過敏に反応することが増えていくかもしれない。

「クリスマスか」

「……もう、そんな時期か」

「恋人たちの季節。だね」

クリスマスチャンでもないやつには、無関係な筈のイベントだ。
「あの赤い衣装は、コカコーラ社がイメージ付けたんだぜ」
おれの後ろに座った男が、対面の女に知識をひけらかせた。
おれも知ってる。

確かに……今は無き、ワンドフルか何かでやつてた。

補足すると、あの人形の老眼鏡には、ちゃんと度が入つている。
だからって、盗んでいくヤツがいるとは思えないが……。
そして 一度も弾まず、カップルの会話は終わつた。
相槌すらなく……。

女の前で、おれがこのネタを使うことは……何か、どんどん消極的になつていくような気がする。

……いや、今年こそは独りじゃないクリスマスイブを 。

「〇」

「おんなじだ。じゃあ、星座は？」

「射手」

「す、二、一！ 運命かも」

「うちの親父も、射手座の〇型だぞ」

「なにどし？」

「子」

「トラでしょ？」

「ああ……おれはね
似非サンタよ、贅沢は言わない。」

「もしかして、誕生日もいつしょだつたりして。ねえねえ、せえー
ので言おつ」

紗唯に……平均寿命という【平凡】なプレゼントを 。

せえーの！

11月15日 考えてみれば、六十億以上の人間が地球上に生きてるんだから、別に驚くようなことじゃないが……おれと同じ誕生日の人間もいるということを、初めて知った。

ミルキー ウェイ

ミルキー ウェイ

イマドキ珍しく……いや、時代を言い訳にするのは良くないな。
家族を大事にする【いい子】だつてことは、初日からわかつていた。

おれに人を見る目があるとは思えないが……【いい娘】を演じて
いるようには見えなかつた。

できる限り親元にいたいと思うのは 母親が死んでから、男手
ひとつで育ててくれた父親に対する恩返しの意味があるのかもしれ
ない。

男と女のエゴで生まれた子供を育てるのは、当然の親の義務だと
考へているおれには、そういう感覚で両親を見ることはできない。
利益性を失つて尚、老後の面倒を看てもらおうなんて、厚かまし
いにも程がある。少子化に歯止めがかからないことが不变の事実で
あるならば、高齢化を解決する術を見出さなければならぬ。でな
ければ、現行の年金制度はいすれパンクする。金は、生産性豊かな
ところに流れなければ決して増えることはない。将来的に還付され
るという考え方ではなく、現在を運営するために納付しているのだと
認識を変えなければ 多くの可能性を有する若い世代の暴動が
起きるのも時間の問題だ。老人ビジネスで雇用を確保できる? 嫁
捨山計画を発動して老人介護システムをスリム化したほうが、公の
財源的にも個の自己実現のためにも、ずっと有益な筈だ。
……紗唯には言えねえな、こんなこと。

娘を持つ親の気持ちを知りたかつた。

……もとい。

住人を、我が子のように見守っている管理人の見解を。

「毎日一緒にだと、疲れちゃうんじゃないかな？ きっと、張り切りすぎちゃって……9回までもたない。延長になるかもしれないしね。きっと衰えていく過程を見せたくないんだよ……本気で愛してる男性には」

おれが誰かに恋の相談をすることは これが初めてだ。

末松忠が店舗の様子を見に来る その時にだけ、おれと紗唯は逢える。

この地上に川は幾つかあるけど、道路特定財源とか呼ばれる公共事業費を食い潰して……ダムもあれば、橋も架かっている。
逢おうと思えばいつでもゼロにできる距離だから、けんきゅう牛と棚機津たなばた女のようなロマンチックな物語にはならない。

河川が氾濫して橋が崩壊したとしても、飛行機やヘリコプターがある時代だし。

一度も乗ったことはねえけど……。

潜水艦が沈むのは理解できるけど、あんな鉄の塊が空を飛ぶ原理は信じられない。

早くこっちに引っ越して来ればいいのに、と思つ。

おれには仕事があるから動けない。

男尊女卑か？

いや、働く人を尊び無職の人を……とにかく、愛するふたりなら少しでも 1分1秒でも多くの時間を共有したいと思うのが、自然な流れだ。

……昔のおれなら【思ひだけ】に留まっていたかもしれない。

「遠距離恋愛つて、ホントっぽい」

紗唯は、そう言つ。

離れていても心を通じ合えることが眞実の愛だと。それは絶対に、壊れない運命なのだろう。

根拠なんかなくても、これが運命だと思い込むことができれば、簡単に信じることができる。

「おにいちゃんと紗唯は、さうとだいじょおぶだよおれも、そう思ひ。

壊れるまでの長い時間を、許されていないわけだから……。

「でも

肉体が単なる媒体で、精神が命の本質であるとするならば、体がどんなに離れていたって、お互に心を感じ合える筈だ。

そのためには、声だったり文字だったり意味不明なキゴウだったり 気持ちを伝える媒介を必要とするわけで……やはり、肉体は必須だ。

肉体と精神が融合して、初めて「イノチ」と呼べる生命体が誕生する。

確実に相手の存在を確認できる関係にあるのなら、体温が触れ合える距離にいたいと思うのは必然で……。

大好きな声が聞けないのは、ちょっとだけさみしいな

11月21日 1／f (2分の1) の搖らぎなどであろう筈もないが……初めて、声を褒められた。

ディスプレイメント

必要な成長の母（だつけ?）とはよく言ったもので……おれの右親指（もちろん手の）は、かなりいい感じでメールが打てるようになつた。

ノストラダムスの4行詩のように解釈任せになる絵文字に関しては、全く以つてちんぶんかんぶんだが……言いたいことを伝える分には、共通語だけでこと足りる。

全てを知ることができないほど広い世界と繋がることで、ケータイは現代人の淋しさを紛らせるツールとしての地位を確立している。しかし……紗唯の【声】を思い出すと、差別化に乏しい同じ顔の文字でやりとりするだけでは癒されない時代も、近い将来やつくるんじゃないかと少し不安になる。

母で思い出したが、うちの料理担当者は、冷蔵庫の先入れ先出しができない。

母屋（おお、無意識に母が!）には、冷蔵庫が2つある。キッチンにあるほうは回転が早いほうだが、それでも冷凍庫には前の週に買ったまま放置されているお肉が入っていることが間間（意識的にママを）ある。

加工年月日や賞味期限に関係なく、永久に鮮度を保つことができると勘違いしているらしい。

『フォーハーベーハング』を観せてやれば、少しは改心するかもしれない。

見付けた時に食卓が空いていたら、おれが調理してスペースを確保する。

どうせ、すぐに補充されるのだろうけど……。

旧応接間に設置してあるほうは容量の6割くらいを【食品りしき物】が入れっぱなしの状態ではいじくせ早幾年。

ドア側の一番上が卵を入れるスペースで、一番下が1・5リット

ルのペットボトルとかが入る大きさのスペース その間にある小さなセクションが、御中元で頂いたジュースに未だ占拠されている。おれは、いただけない。

果汁100%だから。

濃いのは苦手。

恋と同じくらい……。

いい加減、賞味期限が90、Sの物体は廃棄してほしい。
が……おれは家に食費を入れていないから、発言権がないので黙つている。

血液型性格判断でO型は大雑把おおざっぱだと言われるらしいが、おれはその抽象に属してはいない。

まあ、掃除とかは結構ルーズだけど。

A型のおかんにムカツくのは、食品だからかもしれない。切れたやつを食つてるのは、実際おれだけだし。

期限があるというのが、神経質になる要因だらう。
旧い物が残つて、新しい物が先に無くなる それが、生命とリンクしているような気がする。

死について考える機会があまりなかつた頃から、潜在意識の中でその不自然さに憤りを感じていたのだろう。

紗唯が営業所に来た。

ピンで。

「なんか……急に会いたくなつちやつて」

この前会つた時の淋しさが、少しばかり影響しているのかもしない。

今現在 電車の中では、ペースメーカーとかに支障があるといけないから、携帯の電源を切るように促すアナウンスが流れている。

おれは……携帯がおれに普及し始めてから、電車に乗った記憶がない。

それはいいとして……紗唯は、マナーの悪い同世代の連中に腹が立つたと話した。

紗唯自身の体内に、そのマシーンは埋め込まれていない。直接的な機械系統のトラブルは生じないが、少し気分が悪くなつたそうだ。

飛び交う電波に直接的原凶があつたわけじゃなく、その発生源に堪らないほどのストレスが溜まつたのだろう。

これはいいことない。

しかし、もし紗唯と出逢つてなかつたら……そういう状況が目の前にあつたとしても、たぶん気にも留めなかつただろう。

今だつたら「ルールを守れないやつは出て行け！」と怒号を浴びせて、そいつらを世界の車窓から放り出してやりたい気分だ。

まあ……それだけの腕力がないから、おれのセリフは冗談で済む。

「あんま……ムチャすんなよ」

「するよ」

少し疲れた紗唯の顔が、自己治癒能力を發揮して、微笑みに癒されていく。

「だつて紗唯は」

その瞬間、おれには责任感……らしきものが芽生えた。

記憶力が悪いから、よくわからないが……たぶん、生まれて初めての感覚だ。

「」壹でカレーを食つた後　　定時までもまだ時間があつたので、大家平に紗唯を預かつてもらつた。

……正確には「」これで、隣のコンビニで好きなもの買って。あつ、鍵渡しとかないと。えーと、あれ？　いやあ、最近物忘れが酷くな

つてね。一昨日なんか……あつたあつた。吃驚した。はい。どこか出掛ける時は、その植木の後ろに隠しといて。まあ、何にも盗られる物は無いんだけどね。知らない人が勝手に寝ると困るから。イブみたいな女性なら嬉しいん もつすいー……今出るとこ……あいよつ そういう訳で、テレビとか冷蔵庫とかレンジとか勝手に使つていいから。じゃあね」という長つたらしい名称の 換言すれば「新台入れ替えのため無人になつた管理人室」を拝借した。営業所に一旦戻つたおれは、外廻りを名目にして路駐の車内で、事務的な作業に勤しんだ。

おにいちゃんのこと、大好きなんだよ

11月25日 いくつか職を転々としてきたが……ノートパソコンを購入して以来、初めて【zihyou】と叩いて、漢字に変換した。

Put up with . . .

Arabian Knights

第一夜

寝が早かった。

デザートのももいちごを食つてから、3時間も経っていない。
32インチ液晶ワイヤーデテレビで中山美穂が彷彿つて^{はなまゆ}いる最中、レザーソファーの肘掛に凭れ掛つて、徐々に^{もた}そして遂に、睡魔に屈した。

紗唯は、煌々《こうこう》と灯りが点いていても平氣で眠れるタ
イプらしい。

近年稀にみる長旅の疲れが原因かもしけないが……。

「もう寝たのか？」

「みたいだな」

答えたおれに、家主は「チゲーよ」と言つて、ガラス張りのロ
ーテーブルに「コーヒー カップを二つ置いた。

「セックスだよ」

「この男は、知らない。

紗唯の【期限】も……おれの【枷】も。

寝息を立てている紗唯を横目に、おれはコーヒーを
「ブラックかよ」

おれの部屋が汚いのも理由のひとつだが……紗唯を連れて家に帰
りたくなかつた。

部屋は離れだが、遭う可能性だつて否定できない。
説明するのが面倒臭い。

だから、新築報告（お祝いの品を持参しろという暗黙のメッセージ）があつたかどうかは定かではない）を受けたのはラッキーだった。
いや……そう思ったのは「何なら泊まつてくか？」と言われた時

だ。

大学に入った頃から、年齢的に【金との付き合い】が現実味を帯びてくる。

交際費が嵩むから、新たに友人を増やそうとは思わなかつた。大切なカノジョならともかく……どうでもいいトモダチに金を費やしたくはない。

沖耶麻斗は、そんなおれにできた 今でも交流がある唯一の大学時代の友人だ。

話しかけてきたのは、もちろん向こうからだが……。

おれの背が低いという理由で、いきなり「お笑いで天下を取ろう」と誘われた。

沖耶麻斗にとって天下取りコンビの鉄則は、チビとデカらしい。言つほど大きくないのだが……それでもおれとの身長差は、20センチ以上ある。

「まことやまと。いーじやん、いとしごいしみたいで」

【ま・と】の位置関係が【い・し】と同じであることは否定しないが……兄弟でもない赤の他人同士が、何十年も同じ相方で長続きするとは思えない。

夫婦も含めて……。

松竹を挙げた理由は、未だにわからないし……今となつてはどうでもいいことだ。

おれは極度の緊張症で、人前に出るのが苦手だ。

中川家のお兄ちゃんみたいに、パニック症候群に陥るかもしれない。

誘われた当時は、中川家なんて知らなかつたけど……。

断つて正解だつた。

お笑いタレントを夢見ていた若者は、今では立派な建築デザイナーの卵……いや、雛だ。

同世代の人間がマイホームを建てたことにも驚きだが、その家を自分のセンスで手懸けたというのがスゴイ。

「コンセプトは、セミダブル・ライフ つて、所持持つ気あんのか？」

将来的には、企業内建築家として地位を確立したいらしい。
なぜ企業内に納まるうとするのか……イマイチ、了見を得ない。
「紋切り型は避け、ビジュアル的に斬新でありながらも且つ実用的な設計を目指す」 そういう意味だらうか？

それなら、矛盾がある。

「一度でいいから、耐震性を無視した高層建築物を設計したい」と、本音らしい言葉を漏らしたことがあるから。

今でも時々、口にする。

「来るんならわっせと来てくんねーかな。東南海地震」
……阪神大震災のボランティア活動に参加した人間の言葉とは、到底思えない。

まあ、これは本音じやないだらう。

じゃなきや、この時期に家なんか建てない。

買い出しから帰ってきた沖耶麻斗は、コンビニ袋からクリープを取り出し、蓋を回した。

下から出てきた封の真ん中に「あたっ！」と人差し指を突き、親指を添えて処女膜を剥^はがした。

キッチンからスプーンとステイックシュガーを持ってきて、おれの前のコーヒー^{カップ}に入れた。

かき混ぜた底面で、粒子状の音が鳴り続けた。

すっかり温^{ぬる}くなつたホットの中に、白い継粉^{まきこ}が浮いた。

「嫁さんが入居する予定は？」

混ざり切らない白色と琥珀^{こはく}色は、さり気なく、コーヒーの味がした。

「そんなオナいたら、泊まつてけなんて言わねーよ

上着を脱がず立つたまま、沖耶麻斗は冷めたブラックをグビッと流し込んだ。

「思い切つたなあ」

相手もいなのに、結納品総額数百万のおれが言えたセリフじゃないが……。

料理はそこそこ上手い。

こまめに掃除もする。

最近では、一度放り込めば乾燥まで自動でやつてくれる家庭用洗濯機もある。

少々御値段も弾むが……。

家政婦としての嫁は、沖耶麻斗には必要ない。

亭主関白も流行らなければ、男尊女卑つて時代でもない。逆に、リストラされて行き場を模索する夫より、パートで稼ぐ妻のほうが権力的に上だろう。

そういう家庭は増えている筈だし、暫くは歯止めがかからないかもしれない。

そもそも、キヤパシティの違う優勝劣敗社会と共存共榮社会を同一の貨幣価値で機能させようつてのが根本的な誤りで……おれが口を出す問題でもないか。

とにかく、夫婦や家族を形成するにあたつて重要なファクターは、経済力だけではない。

たぶん……沖耶麻斗にとつて【生まれてくる未来】が優秀な種であるかどうかなんて、取るに足らない問題だろう。

「子供がいる家庭への憧れだよ」と言つてから「セックスは、原始的にして究極の子作り方法だからな」

矢鱈やたらとセックスの話を持ち出す。

27歳にして、漸く初恋をしたこと。

その相手が、AVギャルだったこと。

そして……一度もセックスすることなく、別れたこと。

今の仕事に就き始めてから（と言つても、もう辞めるつもりだが）

リフォームの相談とか依頼とかでちゅべゅべゅ会ってるから、この
二級建築士は色々知っている。

「おれが未だに【桜桃】だつてことも含めて……。

「お前はひとりっ子だから、きっと新車じゃなきゃダメなんだな
慰めなのか何なのかわからない。

勝手に推論を立てて納得してくれるおかげで、余計な詮索をされ
なくて済むのはいいが……。

「オヤジの貯蓄に留まつて死ぬより、刹那主義の女子高生に力ネが
流れたほうが経済的に潤うはずだから、また援交ブームは来ると確
信はしてたけど……まさか、おまえがなー」

アメリカと違つて、日本は個人の消費潜勢力に不況脱却の活路を
見出すことができる。

不況とは、金が廻らなくて経済という生き物が不整脈を患つてい
るようなものだ。

「そーそー。ルーズソックスが流行り始めた時、来る！ って思わ
んかった？ ブルーザー＝ブロディー、ブーム」

……そんなことは、どうでもいい。

「条例に引っ掛かつて、捕まつても安心しる。評決のときのマシュー
＝マコノヒーばりに、情に訴えて弁明してやるから」

【刹那主義】という単語が、鼓膜の辺りでリフレインしていた。
紗唯のは……イデオロギーでも何でもない。

「中古かもしんね」

「そんなんじやねえよ」

寝返りを打つて寝やすい体勢をとつた際にずれたブランケットを、
小さく屈折した紗唯の体に掛け直して、おれはトイレを拝借した。
返却することを条件に、無料で……。

おれ自身のことではなく……紗唯に關して。具体的なことは、おれにも殆どわからない。

専門的な医学用語を羅列されると、急に【リアル】が押し寄せてくるような気がして……。

ただ それが、確實に訪れる【現実】であることは否めない。残念ながら……紗唯の担当医は、その方面では相当の権威らしい。苗字は藪^{ヤブ}なのに……。

「テラス、出ねーか？」

水回りが集中した廊下を抜けた所で、炭酸が放出する音が聞こえた、

カウンター キッチンを覗くと、500ミリリットル缶の氷結をグラスに注ぐ沖耶麻斗が視界に入った。

学生時代の沖耶麻斗は、一滴も酒が飲めなかつた。

それが、友人でいられた理由のひとつでもある。

ワリカンで損をしない相手なら、大抵の誘いには付き合える。

断る理由が真実だと相手に伝われば、関係が気まずくなることもな

く 自然消滅は避けられる。

「寒いじゃん」

久米宏のジョークと勾配屋根から垂れ下がるシャンデリアを落として、薄暗くなつたリビングは 真っ白い壁に多数埋め込まれた間接照明から、いろんな色の光の柱が多方向に放たれて、ムーディーな空間を演出した。

光の屈折率やらなんかを計算した上でその場所に配置しているのかもしれないが……センスの悪いおれには、同じ高さと間隔で整頓されていたほうが美しく見える。

色も、柔らかい暖色で統一してあつたほうが落ち着く。キッチンと斜向かいの2階の壁（リビングは吹き抜けになつて）いるので、その床と天井の中間くらい）にある3つの半円筒状のブラケットライトが、上下に開いたガラスセードの隙間から光を漏らしている。

廊下や階段にあるフットライトは、周囲の明るさに応じて勝手に点灯するらしい。

既存のライトが無駄に多過ぎる上に、スタンドライトまである。今は電力を消費していないので、どんな輝き方をするのかはわからない。

常設の球が切れた時の予備くらいにしか、用途が思い浮かばない。にしては、結構な代物っぽい風貌だ。

まあ……タダメシ食わしてもらつた上に泊めてもらつといて、ヒトん家の文句は言えない。

「オトコと星を見上げる趣味はねえよ」

おれは、開閉しないレザーソファーに深く腰を沈めた。

「タバコ、吸いてーんだよ」

煙草を覚えたのも……中退してからだ。

律儀に、二十歳を過ぎてから興味を示す人間だつて、この広い世の中には大勢いる筈だ。

おれが知っているのは、たつた一人だけ……。

「ここじゅ、まじーだろ?」

左手のワイングラスが、ブランケットを被つたレザーソファーを指差した。

なぜに、ワイングラスを使う?

未成年……いや、成人式なんて迎えられない紗唯の寝顔は、横身のために左半分しか見えなかつたが、やはり、コドモだつた。

「……嫌煙家なんだけどな、おれ」

右手のワイングラスが、御免被りたいのに……おれを指名した。なぜに、ワイングラス。

「……飲めねえよ」

「おれが飲めるんだから、飲める」

学生時代ならともかく……地下にワイナリーを持つてゐるやつと言葉なんて、信用できない。

「新築祝いの1つも持つて来ねーヤツを泊めてやるんだから、少し

は付き合え」

無色透明。

渋々受け取ったグラスは、目視でオレンジを検出することができなかつた。

臭いを嗅いでみた。

化学の実験で薬品を扱う時みたいに、手の風圧で。

「おーおー……」「……

無味無臭っぽい。

「死にやしねーよ」

波型のポリカーボネイトを通過して、攪拌かくはんされながら東の陽射しが入ってきた。

半開きの眼で電話を見ると けよひどい、10時10分になつた。

「おそよ」

そんなに遅くはない。

毎週、こんなもんだ。

用途は時計とメールくらいで、電話機としては殆ど機能していない……こともないか。

おれは腕時計をしたことがない。

今まで2回時計を買ったが、何れも懐中時計いすゞだ。

ファッショいすゞンではない。

金属アレルギーでもない。

革だろうが何だろうが、おしつこした後やつんちした後手を洗う時に邪魔よしやまくさいから 理由はそれだけ。

そういう意味で、機能が1つのアイテムに纏まつていては喜ばしい限りだ。

日常生活で使用頻度が極端に少ない機能ばかり増やされても困るが……ポケットに収まる程度の大きさを維持できるなら、別に文句はない。

「もう電話じやねえじゃん！」ってシッコむだけだ。

自分がお洒落に飾ること自体にあまり興味がないが、よく使う手周辺のアクセサリーは特に鬱陶うとうしいから身に付けない。

まあ……左手薬指輪の心配は、当分しなくていいだらう。

「何時に起きた？」

「7時」

「早はやつ！」

……おれには、7時起きの記憶がない。

4歳くらいから、バスの送迎があるええとこの子が行くよつ幼稚園に通っていたらしい。

その頃、何時起きたかも覚えていない。

小中学校は近かつたから、7時半に起きれば間に合つた。チャリ通禁止だった。

高校は一番近い県立に通つて、8時に起きていた。チャリ……を3回パクられた。

大学は近所になかつたが、車で通えばそこそこ近めの所に推薦入学が決まった。

一年の時は必須科目があつたので、仕方がなく高校時代と同じ時間に起きた。

その頃は朝メシを食わない生活をしていたから……授業の中盤までには間に合つた。

二年以降は1限を外して履修計画を立てることができた。

9時半に起きれば、講義の頭に出欠を取られても平氣だった。

コンビニで働いていた時は……今の紗唯と、半日ズれた生活リズムだった。

いくつか職を変わつたが……職種以前に、なるべく朝が遅めの仕事を選んだ。

現在は、高校時代の同級生のコネもあつて、仕事のある日（もう辞めるつもりだが）は8時45分に携帯のアラームをセッティングしている。

どうでもいい話だが……排便は、基本的に家ではない。リズムが安定していないこともあるが……学生時代は、授業中にトイレに行つた。

意識して授業をサボるつていう悪い生徒じゃなく、休み時間のカンチャンで我慢できなくくらい出そうになるから。生理的なことは、したくなつたらするのが一番だ。森本家のトイレットペパーの節約にもなるし……。ウン筋を確かめる派なので、結構な量を使う。

オイルショックの時期に生まれていたら、とんでもない事態になつていただろう。

まあ、それなりに環境適応能力がある生き物だといつ自負はあるが……一度きりの人生に仮説を立てても仕方がない。

おれはこうしてこの時代に生きていて、紗唯は。

何時に寝たかわからないが……目覚めは頗る、悪い。

変な頭痛がする。これが、初めて経験する宿酔なるものかもしない。

5%のアルコール分で……いや、その後オレンジ色のフルーツワインを1本空けて 少し饒舌になつたような氣はするが、話した内容を細かくは覚えていない。

が……何故か鮮明に、ひとつ会話を覚えている。

「最初に会つた時から思つてたんだよ。お前は平凡に嫌われるタイプだつて」

「……どうしようつてんだよ」

「もぐら叩きでパーフェクトやつたことがあるか？」

「はあ？」

「もぐら叩きだよ、ゲーセンの」

「……やつたことねえよ」

「何点出した？ 最高」

「だから、やつたことねえつて。もぐら叩き皿体」

「まずムリ。出る杭は打たれるつて言つけど、打たれずに生き残る幸運な杭だつてあるはずだ。そういうタイプだよ、お前は「欲がないのは、アクナイカ」

思つただけか、言つちまつたのか定かではないが……27年と12ヶ月弱の後悔が、そのクダラナイダジャレに集約されている。

「あいつは？」

「仕事だつて。はい」

「……何だ？」

鍵だ。

「これはイスですか？」「いいえ、リンゴです」
アホな英文の和訳をするまでもなく……どう見ても、Key
だ。

「締めてけつてか。どこ置いとくんだよ
「合鍵だつて」

男友達に、アイカギて……。

「ホントに相手がいねえんだな。随分早い先行投資だ」
……相手もいなのに、結納品総額数百万のおれが言えたセリフ
じゃない。

のに、またまたノートパソコンに向かつて呟いてしまった。

「コア1杯の値段で、バーネースト・野菜サラダ・ゆで卵が付
いてくる状況に、紗唯は驚いていた。

初モーニングだつたらしい。

「バイキングんとこもあるし

「食べられないよね、朝からそんなに」

「食うやつは食う。それに、みんながみんな朝起きるとは限らねえ
だろ？ おれは昼だらうが夜だらうが、食い放題で得するほど食え
ねえけど」

週刊少年サンデーに左手の人差し指を挟んだ少女の口から発せら
れる原価率とか薄利多売とかいう言葉に……週刊プレイボーイを読
んでいたおれは、クリビツテンギョウした。

この業界用語が思い浮かんだことにも、我ながら驚いた。

紗唯にショガーポットの粉砂糖をスプーン並盛り2杯淹れてもら
ったホットが少し冷めた頃合を見計らつて、吉岡美穂のグラビアを
閉じた。

今まで深く考えなかつたけど……「ホット」つて頼むと、必ずホ
ットコーヒーが出てくる。

「アイス」って頼んでも、やつぱりアイスコーヒーを注文したことになる。

頭にホットやアイスの付くメニューは他にあるのに、どうこいつても暗黙の了解が成立している。

「コーヒー専門店じゃなく、普通の喫茶店なのに。」

この略式の標準化は、地球規模で通用するんだろうか？

【モノではないサービス】は、大衆にとって^{あいまい}曖昧で 激戦区での程度の量だったら、きっと密は離れていくだろう。

まだまだ、コストパフォーマンスを優先させる人は多い筈だ。

デフレは、モノの価値と共に ^{血口}実現欲求とこう【ヒトの価値】も下げてしまうのだろうか？

休みなので、学校に行つた。

学校が休みなのではなく、おれが定休日だから……。

中高一貫というシステムをニーズで耳にしたことはあったが、見るのはこれが初めてだ。

新しくて綺麗なことを除いて、外見的には至つて普通の校舎だが……パツと見じや、よくわからん。

学校側は、紗唯の【おかされた状況】を把握している。

その点を考慮しているとは言え……部外者に対して、何でガードが甘いのかとも思ったが……授業料を納期までにちゃんと払ってくれる顧客に、悪い印象を与えたくはないのだろう。

共学だから、変な目で見られることもなかつたし……女子生徒たちのアイドルにもならなかつた。たとえオトコに飢えていたとしても、おれのミテクレじやあな。

……？

B.O.Aとゴマキとあややと市川由衣が同じクラスにいてもおかしくないんじやん。

そういうクラスになつたら、学園生活をもつとHンジヨイできたの。」

もちろん、おれに枷がなければ話で H、Hンジヨイで……。常連だつた所為か、紗唯と保健室のオバサンは仲が良い。含むところがあるのかないのか……ホットミルクで御持て成しへくれた。

伸び盛りはとっくに過ぎたから、もう手遅れだ。

カルシウム不足は、ちつたあ解消されるかもしれない。オモテなしだけに、ウラだらけです。

「寒くなるから気を付けなさい」

心理学も専攻してんのか？ こな先公。

「身長おんなじ。また1コ、共通点だね」

オトコとしては喜ばしくないが……この笑顔は、悪い気がしない。

「体重は違うね」

「ショックだら、同じだったら」

「座高」

「ショックだよ……」

聴診器を前にぶら下げている長身の白衣は、少し声を出して微笑んだ。

左手の薬指にリングがあつたから……だからって、子供がいふとは限らないけど……えーい、まよー

「母はハハハと笑つた」

思うだけなら、誰にも文句は言われない……。

街を歩いた。

ジユビロの完全優勝から1週間が経ち、優勝パレードから3日経つた磐田市は 平静を取り戻していた。 と言つても、来たのは初めてだが……。

1stステージと2ndステージの覇者が同じだったために行われなかつたチャンピオンシップ その経済的損失は5億円に上るとも言われ……そんなことは、やつてる選手には関係ないか。

派手じゃなく、喧騒けんそうもなく 紗唯にとつて、優しい街だと……

そんな気がした。

鰻いわしきを食つた。

丼ではなく、重。

下から、米鰻米鰻山椒。

おれはグルメじゃないが、土用の丑の日に家で食つ、電子レンジでチンしたヤツとの違いは明らかにわかつた。

味皇のよくなリアクションはできないが、かなり美味かつた。注文前に出された茶の時点で、既に一味違つていた。

名古屋名物に、ひつまぶしというものがある。

最初はそのまま、次に薬味を乗せ、最後は出汁 だし をかけてお茶漬け風。

3つの食感を味わえるのがウリだが……最初から最後まで、1番美味しい食い方で食つたほうがお得じゃないだろうか？

それを言い訳にしているワケじゃないけど、おれは愛知に居ながら1回も食つたことがない。

中日ドラゴンズのファンでもない。

古風な大衆居酒屋っぽい感じで、カウンター席が5つに、4人掛けのテーブルと、おれと紗唯が座つた2人掛けのテーブルが1つずつあるだけの、割りと小さい店構えだった。

廁かわやに行く通路から覗いた障子の奥に拡がる畳が敷かれた部屋には机も座布団もなかつたが、それなりの人数を収容できるだろう。2世帯家族なら、どうにか……。

儲かつてゐるのかどうかわからないが、それなりの金を取れる商品

であることは間違いない。

独りだつたら、こんな値が張る店には絶対来ない。自分ではそういうつもりはないが……虚栄心かもしね。

いざという時のために、平素の節約を課している。

だから、根本的には僕約家ではなく 欲があるのは良いことだ。おれたちが席を立つちょっと前に中年のカツプルが入つて来て、入口側のカウンターに座り、主人とダイヒーの話で盛り上がり始めた。

……あ、スーパーの経営統合とかじやなく球界のほうね。

9回やる。

……風邪にご用心。

病院に行つた。

おれの頭を良くする目的じゃなく……。

アルジャーノンの菅野美穂は好き。

言うのは只だ。

何かの間違いで、向こうがコクつてきたとしても……やつぱり金はかからない。

絶対に、付き合つことにはならないから。

たとえ、梅酒を控えてくれたとしても……。

どうでもいい話だが……吉沢悠とバヴィエル・サヴィオラが似てると思うのはおれだけか？ 2006年ドイツで開催されるワールドカップサッカーを御覧戴ければ、賛同者は増えるだろう。でつかい大学病院だから……たぶん、死人も沢山出るんだろう。死んだ人間の大半は、病院で死んでるから。

ロビーの大画面では時代劇が放映されていた。

老人たちがテレビに近い長椅子に寄り集まつて、殺陣のシーンを客観的に眺めていた。

大きな便りを済ませたおれは、その横を通して一番後ろの長椅子の隅に腰掛けた。

短い足を組んだ（意識しなければ、大体左腿が上になつている）と
ころで、中学校時代の同級生に声を掛けられた。

「おお、『無沙汰』

とは言つたものの……正直、おれはあんまり覚えていない。
左の腰骨の辺りに付けてある名札を指差してもらつて、漸く「そ
う言やあ、いたなあ」と思う程度の記憶しかない。
名前の右に添付してある「写りの悪い顔写真」を見ても、やっぱりわ
からない。

本人がどうかすら……。

向こうから声を掛けられなれば、一生氣付かなかつただろう。
おれの顔を見て、よくおれだとわかるもんだ。

……成長してないってことか？

「どお？ 白衣の天使」

白井典子は自慢げに言つて、くるりと回つて見せた。

……ええトシこいて、よくやる。

「悪意のペテン師にしか見えねえけどな」

ツベルクリン注射の痕が残つてゐる辺りを、おもいつきり平手で
殴られた。

「ごめん。仕事だから」

白いぺったんこの『履物』は、車椅子の男性に向かつて小走りで去つ
ていった。

……暴力を謝れよ。

紗唯の定期健診は、特に問題なかつた。

いや、病を患つてゐること自体問題なのだが……今すぐどうこう
とこうことはない。

らしい。

おれには どうすることもできない。

道草を食つた。

食事の意ではない。

アミューズメント施設（まあ、普通にどこにでもあるゲーセンだけど）があつたので……紗唯の制服姿が気にはなつたが、寄つた。正式名称は知らないが、UFOキャッチャーみたいなやつをやつた。

三度目の正直で、これまた知らないキャラクターをゲットした。紗唯のハートもゲットした。

これは、今に始まつたことじやないか。

……イマドキ、ゲットで。

ダンディ坂野 あれは、ゲットか。

ショルダーバッグには入らない大きさだったので、紗唯は4本足のぬいぐるみを抱っこして持ち歩いた。

荷物が嵩張る かさば 改めて、マイカー社会の便利さを知った。ガードマンっぽい制服の人はいたが、何も言われなかつた。

……口ではね。

学校に戻つた。

相変わらず、ノーガードだ。

ここには、盗んだバイクで走り出したり、夜の校舎窓ガラス壊してまわるような生徒はいならしい。

尾崎豊が逝つたのは、おれが高校生の時だと思う。リアルタイムでは、そんなに印象が残つていない。

音楽に興味がなかつたわけじゃないが、……男性ヴォーカリストのプライベートな部分に关心がなかつたのは事実だ。

後々知るつてことは、よくある。

没後の特集で高騰する価値を見て、改めて彼がアーティストだったのだとわかつた。

早世に正しいもクソもないけど……あれはあれで、良かつたんじやないだらうか。

社会人に染まつて尚、社会批判し続けるのは不可能だし　五十年過ぎてから反抗期を振り返つて、若過ぎた不良を自分自身が肯定できるのか？　という疑問もある。

一番苦しいのは、自分が否定したいと思い始めた過去が、多くの人の賛同を得ていることだ。

あの頃も今もそしてこれからも　必ず通過するハイティーンという世代は、異端を称賛してしまうだらう。

「あれは若氣の至りだつた」と主張する道が通行止めになつたまま後戻りも許されない。

ファンを裏切りたくない。

カリスマを失いたくない。

ずっと、愛されていたい。

おれが地位と名声を轟かせたら、間違いなくそう思つ。

印税生活を確約されたようなものだから、ペシミストとして歌い続けることよりも隠者になることを選ぶ。

世間が自分に求めるものを提供できなくなる不安、大人に成長する術を鎖された恐怖　　ティンカーベルが脳裏に鬱陶しく纏わり付くストレスは、少なからずあつたはずだ。

みんなそういう感情を中に秘めてはいるが……叫ばない。
公言さえしなければ、後々自己完結で收拾がつくから。

そういつた狡猾さの欠乏が、致命傷になつたのだと思つ。

永遠の純粹さを売りにするつもりなら、反社会的思想を換気させる最低限の情報をのみを与え、直接的な接觸を完全回避するために

アパートへイトを強制執行するべきだ。

隔離する形での保護は、映画の中でFBIとかがよく使っている。おれの『SEVENTEEN, S MAP』は、幼い頃に幾度となく創造していた敷き布団の海図にちょっと毛が生えた程度の……おつむが全然成長していないネバーランドだつた。

労賃を得るような年齢になり、買ってまでの苦悩はしたくないおれは……たぶん、安樂死できるタイプの人間だらう。

ただ、自分が生きている間は、愛する人にも生きていてほしい。最近何だか、どんどん欲張りになつていい気がする……。

ホームルーム（中学までは終わりの会とか言つてたのに、高校になるとちょっと気品のある横文字に変わつた。のは、おれの田舎だけか？）が終わつて、生徒たちが校庭に流れ始めたところだつた。4 Dの教室に入ると、女子生徒が4人寄つてきた。

当然のことだが……おれにじゃなく、紗唯に。

1人を除いて、みんな小学校時代からの幼馴染みだそうだ。

みんな……おれよりも背が高い。

唯一勝つているのは、ウエストくらいだらう。

1人を除いて……。

4人の中で……と言つか、クラスの女子で一番背が高そうな「ふーたん」は、練習試合があるからと言つて、挨拶程度で教室を後にしてた。

長身を活かして、バレーとかバスケとかやつてるのかと思いつや、フェンシング部のホープだそうだ。

確かに、リー・チは長いに越したことはない。

打つてる連中からしてみれば、儲かりさえすればそんなもんどうでもいいというのが本音だらうけど……あ、パチの話ね。

帰宅部なのに色が黒い「エリー」は、本名と合致する文字が見当たらず……ニックネームの由来がわからない。

想像するに、みんなで一緒に行つたカラオケで当時付き合つていた彼氏が彼女に向かつて桑田圭祐の真似をしたからとか、だとし

たら、危なかつた。

一步間違えば、彼女はみんなから「ギャランドゥ」と呼ばれる羽目になつていったかもしれない。

父親の仕事の関係で、残暑の厳しい一学期の頭に転校してきた「まいちゃん」は、昨日オープンしたナンタラ ゆうカフH（名前が思い出せない）に行きたいと言つた。

街の情勢に敏感で、今ではジモティーズよりも地元に詳しい。苦小牧育ちの道産子は未だ暑さには馴染めないらしいが、新しい街にはすんなり融け込んだ。

若さが直接的な理由になるのかどうかわからないが……環境適応能力が無いに等しいおっさんには、羨ましい限りだ。

「郷に入つては郷に従え」という格言を実践できるほど、おれは器用じやない。

将来役立つかも 勉強する理由なんて曖昧で、意欲なんてそういう沸き立つもんじやない。

況して、将来が残りわずかしかない人間なら尚更だ。

それなのに紗唯は、成績優秀らしい。

毎日授業に出ているわけじゃないのに……教師の、教師としてのレヴェルが低いわけでもないだろうし……何故か紗唯は いや……本質的な部分での賢さを有しているから、少ない時間に得た知識でもすぐに吸収できる理解力に長けるのかもしれない。

BWH&ウエイトに長ける「ゆっぽん」が、数学の教科書を学生鞄から出して広げ、おれの記憶から削除された単語を幾つか並べ4連休中の紗唯に解答を求めた。

日直らしき男子生徒が、敷き詰められた歴史的仮名遣いを雑に拭いた後、黒板消しクリーナーの音が教室に籠つた。

当たり前だが……黒板消しで消えるのはチョークの粉で、黒板自体は消せない。

つて言つか、どっちかって言つと、縁だよね。

黒板の横には、色々な掲示物が貼つてある。

その上のほうに、今月の目標が掲げてある。

定型句として印刷されたその太い文字は見えるが……肝心の目標は、細いマジックで書かれていて読めなかつた。

視力が悪いからしようがない。

4500円 + 消費税で購入した眼鏡は、レヴィンの使つていない灰皿に入れてある。

運転する時以外、あまり掛けない。

ここでは目が悪くたつて、命の危険はない。

可愛い口の顔は見えないが、ブサイクも見なくて済む。

比率で言つたら、圧倒的に後者のほうが多い。

後ろのほうの見えない掲示板に目を細めていると、やつと紹介されるような話の流れになつていた。

まあ、なきやないで別に構わねえけど……。

「どうして?」という口アクションはなかつたので、ちよつと安心した。

紗唯がおれを選んだことに對しても……おれが紗唯を選んだことに対しても

……どうしてだう?

同世代のおしゃべりには気まずい空氣もなく その普通過ぎる

光景は、おれにとつてすごく違和感があつた。

……おれは紗唯に【こんなこと】を考へさせてやしないだらうか?

トイレに入った。

立つて放てるほうだから、レディースじゃない。

だからつて……でも、背に腹は代えられない状況の時は、迷わず腹の調子を考慮して行動する。

因みに、高校時代に一度だけ職員用トイレに入つたことがある。

掃除の割り当てになつてゐるんだから、生徒にだつて当然そのくらいの権利がある筈だ。

他に利用客がいたら、おれはひとつ離れた便器に立つ。

これは便に限つたことではなく、基本的に混み合つたところが嫌いなだけだ。

イチモツを覗かれるとか、そういうことを避けているわけじゃない。

逆に、見られればどんどん綺麗になるかもしないし……。

急いでない時は、大体真ん中に立つ。

入口に一番近い場所は、かなりヤバイ状態の人のために空けておくのがマナーだと、おれは思う。

そうすることだと、窮地に立たされた時に救われる権利がおれにはある筈だと考へることにしている。

トイレに限らず……まあ、いいか。

4 Aの隣（校舎の端っこ）にある男子トイレは、小用の便器が4つあり、先客もいなかつたので 少し迷つたが、入口から2番目に陣取つた。

ベルトを外さずに、スラックスのチャックを下げた。

トランクスの社会の窓から、陰茎を引き出した。

「カレシですか？」の言葉が、左耳から入り、微風が頃うなじを通つて、すぐ右の便器が塞ふさがつた。

ついさつき、ブラックボードを縁に戻した男子生徒だ。

「僕は彼女が好きなんです。でも、どう接したらいいのか分からな
い。告白どころか……まともに目を見て話すことすらできない」

普通の学生もいて、ちょっと安心した。

「うわっ！」

おしつじが排出口で分裂して、左大腿部のチェック柄に飛散した
らしい。

……普通の男性として、ちょっと安心した。

卓球をやつた。

おれは中学時代に卓球部でそこそこ戦績を残したので、そこそこ自信はあつた。

が……昔取つた杵柄きねひがは、ちょっとばかり古過ぎた。

いや、ショット自体は良かつたんだ。

ペンで思いつきりドライブをかけたピン球はクロスに速くて低い弾道を描き、県大会出場者のフォアを見事にパッティングした。

卓上のクエルテンと呼んでほしゃくらじ、それはそれは素晴らしいショットだつた。

二度とできない最高のショットだつた。

ただ……肩の付け根と肘の付け根が一瞬飛んで行ったような気がした。

すぐ戻ってきたようだから大事には至らなかつたが……小娘相手に大人気なく本気を出した罰だ。

まあ……その後は、最近めつきり運動しなくなつた三十路間近のおっさん相手に、女卓のエースが大人気なく本気を出した（に違いない）から、罪の意識は遠退いたけど……。

疲れるし……腕がもげたり踏み込む足が骨折したりするといけないので、念のためにスマッシュ系は封印した。

が、結局メチャメチャ疲れた。

カットマン相手に、ツツツキでツキ合つもんじゃない。

筋肉痛が襲つてくるかもしだれない。

……3日後辺りに。

来客用駐車場に行つた。

2枚しか昇降ドアはないけど、レビュインは車検証上では一応5人

乗れる設計になっている。

そこに女が座つたのは これが初めてだ。

おれと紗唯の私物をトランクに詰めて、黒川麻衣と酒井彩音が助手席側のドアから後部座席に乗つた。

因みに、おれは常時トランクに毛布を入れてある。いつ何があつてもいいように。

そう言やあ……全然洗つてねえな。

まあ、いいか。全然使つてねえから。

藤田奈々子と……高倉優子だつたら、さぞかし窮屈に感じたことだろう。

今日が小村父の誕生日で その娘が、そういうた家の行事に参加する、名前のとおり優しい性格だつことは 幸いだつた。いや、おれ的にじやなくて……レビュイン的にね。

静岡県バージョンにFMチャンネルのオートリサーチをかけたら、聞いたことがある曲が流れてきた。

誰だつけるか……あつ、思い出した。

唐沢美帆だ。

漢字がこれで合つてるかどうかは、わからんねえけど。

女だけの「何が食べたい会議」が終わるまで、そこら辺をぐるぐる走り廻つて 空いていた、ココスの駐車場に入つた。

お腹のほうは、そんなでもない。

5時半というのは、おれにとつてかなり早い夕食だ。

と言つても、食事がテーブルに到着したのは6時半だが いや、店の対応がどうじつじやなくて……選んでる時間も、楽しい食事のうちつてか？

昼に米を食つたので、おれは麺類を注文した。

肉にしようか迷つたが、カルボナーラといつ重そうな響きは、満腹感を味わえそうな気がした。

元を取れないと思ったが……対面の2人に流されて、ドリンクバーもセットで頼んだ。

スーツ姿のリーマン一人と、制服姿の女子高生三人 おれが端はたから見たら、豪勢なエンコートだと思うに違いない。

店内のメニューの中ではそこそこ単価の高い料理が、おれたちのテーブルに並んでることだし……。

他人の奢りだからって、こいつら……まあ、月給が一番高いのはおれ（だよな？）だから、しうがない。

宝石のローンとか、結構厳しいんだけどなあ……。

家に着いた。

おれん家じゃなく、末松家に。

途中、2軒寄る家はあつたが……。

来ることは伝えてある。

おれからじやなく、紗唯から。

ちゃんと連絡をしてくれる娘だから、親としては安心だろ。おれは……必要に迫られない限り親とは関わりたくないから、外出する時とか帰らない日とかでも、こっちからは何も連絡をしない。

「どこ行つとつたの？」「何食べた？」

脇の緒が疾うに切れてる子供を、未だに管理下に置きたがる。

ガキじやねえんだから、放^ほつとけよ！

サイドミラーを開じて、家のすぐ前にレヴィンを路駐した。

ガレージには相変わらず カローラが收まっていた。

長く乗れる車ではあるんだろうが……本当に長い付き合いだと思う。

おれも、暫くレヴィンを手放すつもりはないが いつ心変わりするかわからない。

玄関の前で、犬が御座りをしていた。

首輪をしていたが……たぶん紗唯ん家の飼い犬ではないだろうか

ら、近所の誰かんとの【放し飼い犬】だろう。

それか……盛りの時期で、遠くからやつて来たか。

おれは小学校4年くらいの頃から中学何年今まで、犬を飼つていた。

神社の簡易ダンボールハウスで泣いていた（おれにはそう聴こえた）捨て犬を拾ってきて。

「おれは」と言うより「おかんが」と言つたほうが、正確だが……。

「ワンワン」はある日、鎖を断ち切つて忽然と姿を消した。

連日の味噌汁ぶっかけごはんに嫌気が差しての行動だと思つていたが……忘れそうになつた頃、ちゃつかり帰つて來た。

雨露を滴らせながら、窓ガラスに前足を寄り掛けて座敷を覗いているのを、お経を読み終わつたおばあが見付けた。

それから何日だつたか何ヶ月経つたか覚えていないが 12匹、産んだ。

3匹は瞼の開かない間に死んで、5匹は方々《ほつほつ》に……？
数が合わんな。

とにかく、森本家には2匹が残つた。

「クロ」は近所から五月蠅いと苦情が出て、おれがある日学校から帰つた時には 既に、保健所に引き取られていた。

仔犬の頃大人しかつた「シロ」は、いつしか……おれを見る度によく吠えるようになつていつた。

彼はオスだつたので、それ以降、繁殖することはなかつた。

犬に限らず……おれは【命を育む】ということに不向きな人間だと悟つた。

赤い首輪は御座りを解除し、鼻をひくひくさせると、しつぽを振りながらおれたちの間を通り抜け、どこかへ掃けて行つた。

紗唯は玄関のドアノブを引いた。

が、開かなかつた。

「ちょっと持つてて」

紗唯はおれに騎士のぬいぐるみを預け、手に持つていたショルダ

一バッグからキー ホルダーを取り出した。

おれん家には、鍵を持ち歩くという習性がない。

1個しかないので、全員外出する時は最後に母家を出た人が物置近くの鍵置き場に掛ける。

スペアを作つてもいいが、別に盗られて困るようなものもねえし。治安いいし。

おれの部屋には、鍵がない。

昔はあつたと思うが、紛失した。

これまた鍵のないタンスの中には、総額100万の宝石があるから、勝手に持つて行かれると将来おれの嫁さんになる女は困るかもしけないけど……って言つたか、結婚できるかつていうことのほうが深刻な問題のような気もしなくはないが……まあ、大丈夫っしょ。

治安いいし。

居間に通された。

末松忠や……他の誰かがいる気配はなかつた。
鍵が掛かつてたんだから、当たり前か。

「たぶん、清水のおいちゃんとこ

おいちゃんと言つても、兄弟姉妹から生まれた男の子じゃない。つて言つた、一人っ子だし。

血縁関係のある甥ではなく、小さい頃から「おいちゃん」と呼んでいる名残だそうだ。

感覚的には、ミシェルが「ジェシーおいたん」って言つてみようなものか。

あれは従兄弟いとこって設定だつたかな？

記憶が曖昧。

ただ、教育テレビで一番面白い公開録画バラエティ番組だつたことは覚えている。

また再放送しねえかなあ、フルハウス。

ショルダー・バッグと人馬のぬいぐるみをソファーに置いて、制服姿の紗唯はサンリオの暖簾のれんをぐぐつた。

コタツ机の上には、パチスロの雑誌の下に 若者向けの女性誌があつた。

やつぱり、普通の女子高生だ。

……四十路男の趣味かもしれないか。

「粗茶でござりまする」

茶ではなく、コーヒーを持て成された。ブラックじゃないやつで、ほつとした。

アイスじゃないやつでホット……。

思い出したように台所に戻つて、紗唯は一口チョコレートの大袋を取つて來た。

それぞれにアルファベットが1文字ずつ記された……ブラックのやつ。

8時半になつた。

荷物を部屋に片付けて、紗唯はお風呂に入つた。

その十数分後 おれがノンノを讀んでいる時に、末松忠が帰つて來た。

「帰つて來たかア？ 家出少女」

……清水のおいちやんを引き連れて。

「悪かつたね。突然押しかけちゃつた上にわざわざ送つてもらつちやつて」

末松忠は襖ふすまを開けて、座敷から座布団を用意した。

「やるなア、不良青年」

主人がわざわざ上座に座布団を用意してくれたのに、それを移動させて、おれのすぐ右隣に座つた声は……かなり臭かつた。

「おいかちゃんなん、おいかちゃん知つとるやろ？初めてか？おらア、
一一ちゃん知らんや。何や、あんな。おいかちゃん、カツオ言つんや。
勝つて生きるつて書く、常勝やな。一一ちゃんはあれか……何や？」
……生きぢやあいるが、酒には負けっぱなしだ。

「また、昼間つから飲んでたの？」

トレーナーに着替えた風呂あがりの紗唯が、バスタオルで長い髪を拭きながら廊下を通り過ぎた。

「ほらつ、すぐまたあんこと言つ。昼間つからつちゅーけどよ、
何を以つて昼間かつちゅーことだよ。なア、一一ちゃん。夜働いと
るモンは、仕事が終わつたら夜やる？ あつ、朝か。で、すぐ夜や。
やつ、昼やな。ほんで呑んじるんや。もうみんな言つ。仕事終わつ
てな、おいかちゃん呑みよるからな、みんな言つ。昼間つから昼間つ
から、夜間つからは朝間つからや。おいかちゃんおかしないな？
おかしいやろ？」

適当に相槌を打つておいた。

酔っ払いの話し手は、聞き手の引き攣れる笑顔に気付くことはな
かつただろ。

突如として鬱^{うつ}状態に陥るもの……全般的に、気分良さをつて喋つてたから。

10時になつた。

一階にある自分の部屋から、髪を乾かした紗唯がバスタオルを持って降りて來た。

末松忠は、風呂に入つてゐる最中だつた。
タイミングよく……のんべえは、トイレを拝借してゐる最中だつた。

脱衣所の洗濯籠にバスタオルを入れて居間に入つて來た紗唯は、
おれの左前の座布団にちょこんと座つた。

「お疲れさまでした」

「ドライバーに労いの言葉をかけて、一礼した。

以前にテレビで見たボクシングの、試合直後の勝利者インタビュードライバーに労いの言葉をかけて、一礼した。

で、タイかどこかの選手に日本のアナウンサーが「お疲れ様でした」と言つたら、通訳の外人がその【質問】を素直に訳して、ムツとして答えたチャンピオンのセリフを「いいえ、私は全く疲れていません」と直訳したのを、ふつと思い出した。

「どういたしまして」

礼には礼を。

「そつちは大丈夫?」「

ワンツーリターンみたいな会話。

「ちょっと疲れた」

微笑が、肩で息をした。

「いつも何時くらいに寝る?」

「う~ん……11時とか、かな。おこにいちゃんは?」

「おれは……不規則」

眠くなつたら寝る。

大体1時から4時の間で。

それと、寒い時も早く寝る。

もうすぐ寒くなるから、毛布に包まる時間は早くなるだろう。

「疲れてんなら早めに寝たほうがいいぞ。変なのに抱まるところだと厄介だ

し

……結構長^{なげ}えな。

寝てんじやねえか?

「それじゃあ、お言葉に甘^くえて」

コタツ机に両手を突いて、紗唯は立ち上がった。

「何のお構いもできませんで」

「いえいえ」

ホステスはゲストに、深々とお辞儀をした。

「おやすみなさい」

廊下を摺つて 小さな足音が、階段の上にフロードアウトして
いった。

適当に、左手でチョコを摑んだ。

4個取れた。

アルファベットをよく見ると RとXを避けて、別の文字を探
した。

Sだけがなかなか見付からず、携帯が鳴った。

液晶画面に表示されたのは……親父の名前だった。

「もしもし? ……いらん。うん、そのうち帰る。つづーい」

予想通り、おかんからだつた。

「おはよう、ジョントルマン」

電子音は、びりりりりして音で聞こえてしまつたらしい……。

日付が変わった。

「悪かつたね、迷惑かけちゃって」

漸く　解放された。

完全な静寂とはいかないけど……軒^{むへ}や寝言^{いびき}には、合^ういの手を入れなくて済む。

末松忠は「タツを捲^{むへ}つてモルツの缶を拾い、ビニール袋に入れて、持つところを蝶々結びで結んだ。

パンパンになつた小さいビニール袋の中で数個のアルミ^{いすず}が擦れる音がした。

清水勝生の頭の後ろ　　ソファーの陰に、その「ミミ」は静かに置かれた。

「どうして……まだ引っ越さないんですか？」

店舗の改装にはもう少し時間がかかりそうだが、オーバーエイジ枠を設けて特別契約した居住区のほうにはいつでも入居が可能だ。それなのに、末松忠の入居予定日は来年の2月初頭になつていて。にしても……昔のわれは、こんなストレートに訊けるような性格じゃなかつた。

「十三回忌が済んでから、つて思つてね」

襖^{とい}が開いて、仏壇^{りん}が現れた。

座布団に腰掛けた鈴の横に立て掛けたある小さな遺影に歩み寄つて、末松忠は正座をした。

「成人の日に……今年は違うけどね」

その背中は　　淋しそうに小さく丸まつていた。

「振袖姿を見届ける、つて約束したのになあ……」

【当日】に想い出のある人にとっては、全然ハッピーじゃない連休制度だ。

力なく立ち上がりつて居間に戻つて来た鰐夫^{やもめ}は写真立てを表向きに

寝かせて炬燵机に置き、おれの前にそつと押し滑らせた。

産婦人科の寝台で生まれたばかりの赤ちゃんを抱いた

遺影と

しては相応ふさわしくないのかもしけないが……【女】の一番幸せな笑顔

を見せた瞬間が、そこには納まっていた。

「美人だろ？」

スッピンではあるが、確かに美人で……どことなく似てきた。

「僕には勿体無い位の……やっぱり、勿体無いって思つたのかなあ」
開けた襖はそのままに　末松忠は、座敷から遠い末席に腰を落

ち着けた。

「……仏様は」

「おれは……仏教徒じゃない！」

「サウザー、つて知つてるかい？」

「……北斗の拳つすか？」

199X年を無事に過ごした末松忠が、大きく頷いた。

「愛ゆえに、人は苦しまねばならぬ。愛ゆえに、人は悲しまねばならぬ」

不幸を前提に……それを不幸だとは感じない絆を紡ぐ。

「苦しんだつて悲しんだつて……そういうもんでいいんじやないですか？　愛つて」

愛ゆえに　乗り越えられる！

「富川の……家内の御両親がね、言つてくれたんだ」
「辛くなつたら、いつでも別の居場所を求めればいい」
「誰も責めたりしないから」
「あの子のためにも幸せになつてくれ、つて……」
「僕は充分過ぎるほど幸せで……だけど、娘のことを愛してくれる男性を目の前にして……あの時の御両親の気持ちが、やつと理解できるようになつたよ」

「愛される」とは幸福で……愛させるとせ、不幸なのがもしかれないね」

「あの子がそう思っているかどうかはわからないけど……電車乗り継いで会こに行ひちやうんだから、そんなことはないが」

「生きてる間も……その後も……」

「まだまだ、これから色々と迷惑をかけると思ひ」

「一途であることが、眞実の愛とは限らない」

「……僕が言えたことじやないけどね」

「幸せが何なのか、考える機会があくなると思ひ。自分ことひでの相手にとつての……」

「どんな選択肢を選んだとしても、後悔は残ると思ひ。それはひとも重要な、分岐点だから……」

「たつた一つしか未来に持つていくことはできないけど……正しくことはたくさんあるんだ、つてことを……」

「間違つてないよなあ……香澄」

古そうな振り子時計が「ボーン」とひとつ鳴つてから、もう一度ひとつ鈍い音を鳴らすまで おれは一言も口を挟まず……素面の愚痴を聴き続けた。

7時だった。

酒の抜けた清水のおいちゃんは、異様にテンションが低かった。彼の鼾の所為だけではないが……あまり寝てないおれも、それなりにテンションが低かった。

まあ……睡眠時間に左右されず、おれの寝起きのローテンションは今日に限ったことじやない。

紗唯は、ベーローテンションの制服に着替えて朝食の準備をしていた。

制服が可愛いからとこつ理由で毎日のよつに着てるから その

時はまだ、紗唯が学校に行くつもりだとこいつ」と、おれは気付かなかつた。

末松家の朝は、米派らしい。

森本家の朝は、ばあちゃんが入院してからパンになつたよつだ。まあ、おれは高校に入る頃からパン派に転向してゐるから、その変化に関して異論はない。

と言つうか、何を食おうが個人の自由だ。

家族だからつて、無理に合わせる必要はない。

13年振りの……朝から味噌汁だ。

円卓には、その他に、たくあんの入つたプラスチック容器が一つと、田玉焼きとポテトサラダと小さいカニ一口ロツケが盛られた皿が人数分並んだ。

あ、お茶もね。

それから、割りじやない使い捨てじやない箸も。

どつちが醤油かを紗唯に訊いて、おれは卵焼きにかけた。清水勝生は皿全体にソースをかけた。

……普通、醤油だろ。

1階の寝室から起きてきて、父親が「タツに着いた。外から戻つて来た娘が、朝の挨拶をして新聞を手渡した。番組欄にだけ目を通して、末松忠は空いている席に着いた。ご飯の上に田玉焼きを乗せて……ほら、やつぱ醤油、じやん。紗唯は、塩だつたけど……。

昨日はそちら中ブラブラしていたが……家から歩いて3分くらいいのところに、高校はある。

車を出すほどの距離でもない。

「送ろうか?」

「だいじょおぶ、いっぱい寝たから。ゆっくりしてつて

紗唯は当初の予定通り、1人で学校に出掛けた。

……おれのセリフは、間違つてたんじゃないだろうか？
遠距離恋愛中の恋人だったら 。

2時だった。

おれは 爆睡ばくすいしてた。

末松忠が9時半頃、携帯でパチスロ仲間らしき人物と喋つていた
ところまでは覚えてるんだけど……。

11時11分に着信があつた。

山崎英伸 高校時代3年間同じクラスだった、今でも交流のある友人だ。

彼は現在、工場で昼夜3交代4勤2休の12時間労働を強いられている。

このご時世に忙しいのは有り難いことではある。

休みの日、偶に電話を入れてくる。

たぶん……パチンコの誘いだろう。他の用件で掛かってきた例が
ないから。

折り返したけど……電波の届かないところにあるか、電源が入つ
ていなかつた。

寝てるだけでも、腹は減る。

大袋の一口チョコレートが、まだ半分くらい残つていたので……
アルファベットを組み合わせてみた。

完成した。

ファミリーネームの7文字（ツバタ）を順番に食い終わつたと
ころで、家主が帰つてきた。

ホストはゲストに、ヤマザキの菓子パンとコーヒーを淹れてくれた。

ヤマザキと言えば……トーストの形をしたリクライニングチェア

が欲しくて、点数を集めてハガキを3枚送ったけど、一向にモノが来ない。

発送を以つて発表に代えさせて頂くタイプの懸賞だから、ハズレ確定だ。

職業欄に、パイロットとか作家とかソムリエとか 虚偽で埋めたのがいけなかつたのか？

必ずもらえるお皿は、点数が集まる毎に当たるのに……。わかつたことは いくら相手が知る由もないことでも、嘘はよくないということと 現在日本には、おれよりもラッキーなやつが2万人以上いる。

今日の山崎は……ツいてたかな？

3時半になつた。

「いいですよね。誰かの夢を支援したいっていつの
いつの間にか そういう話題になつていて」

「普通は社会人になつて自分の力でいろいろ叶えていくんだろうけど……時間がないから。娘が存在した、ってことをみんなに伝えたくてね……親バカだろ？」

「いえ……すごいです。そういう考え方できるの
「すごいかないよ」

父親は、照れ笑いをホットで冷ました。

「子供ができるば、みんなそうなる」

例外はいる。

その例外じやないつていうのが、すごいことなんだ。

「この人は、偉い！」

……始まつた。

ホームルームが終わつたくらいの時間に……酒にめっぽう弱い力ツオから逃れるようにして、おれは来客用駐車場に乗り付けた。レヴィンの中からメールを入れると、すぐに返信があつた。

何回かメールのやりとりをした。

道案内をする時に、リアルタイムで声の情報を利用できないのは不便だと そういう機会は滅多にないから、別に構わないか。

今春に新築されたという校舎に着いた。

名義上は「新校舎」ということになっているらしいが……どう考えても、中高生をターゲットにしているとは思えない。

広いエントランスロビー、インフォメーションカウンターにオシャレな帽子を被つたおネエさん。

絵画にピアノに英会話に料理 案内図を見ると、確かにアーティスティックな活動を支援するカルチャースクールではあるらしいし、人材の育成を目的としている部分もあるが……「生涯学習施設」と言つたほうが近いかもしない。

一流ホテルのような外観の。

駅地下に無料駐車場があつたから、車で来れば良かつたと後悔したが……10分くらいのウォーキングも、たまにはいいか。

……何で駅自体は、古いまま残したんだろう？

駅前開発に際し、住民の様々な思惑が働いたのだろうが……おれが言及することじやない。

紗唯の【旅立ち】に不都合が生じなかつたのだから、おれ的には 無問題だ。
モーマンタイ

から見えた。

ここから電車に乗つて 紗唯は来た。

赤い電車が出発するが、上つて行くガラス張りのエレベーターから見えた。

因みに……エレガはいなかつた。

定員が1人増えると、回転率のアップに繋がる。

目方が2人分のやつにとつても、細身が1人いなだけで助かる

場合もあるから、喜ぶべきことだね。」

4階に到着した。

先ず、トイレに入った。

いや……レストルームと呼んだほうがいい。

今までおれが拝借した中で、一番綺麗だつた。

トイレットペーパーで鼻をかもうと思つて開けたドアは、どんな芳香剤かはわからないが、とてもいい香りがした。

丸めた鼻紙を水面に浮かべて……何となく、こつちで小さいほうをしてみた。

大を我慢できない人が立て続けに入ってきて、最後の人が間に合わなかつたとしたら……いつかおれ自身にそんな日が訪れても、今日のたつた1度の行いの所為で、おれには文句を言つ資格はなくなつた。

腰を浮かすと、ソリッドを飲み込むくらいの大津波が押し寄せて液体は、勝手に流れた。

30台以上ものパソコン（单一機種ではなく、複数メーカーの複数機種）やら周辺機器が並ぶその部屋を「デジタルーム」と命名したのは、新校舎設立に多額の出資をした理事長だそうだ。

誰も反対する者がいなかつたのは……彼女が多方面に渡り、多大な権力を有しているという噂があるからだろう。

いくら何でも、静岡県民じゃない人間にまで影響を及ぼす力ではない筈だが……文句は言わない。

おれは、事なき主義者だから。

以前にテレビで見た、プレステ2のソフトを作つてゐる企業のよう仕切りのある空間は、Macブースになつてゐた。

おれがデザイン的に好きなCubeもあつた。

今のおれの部屋には似合わないから、新家屋を作つたら買おうと思つていたが……いかんせん、金がない。

部屋を建て替えるどころか……新型のパソコンを買う金すら。

視線を部屋の中央に移すと、見覚えのある制服姿が6つ、SON

YのVaiを囮んでいた。

椅子に座つてディスプレイを覗いていた女子高生が、おれに気付いて左手を軽く振つた。

眼鏡を掛けていなかつたから顔はわからなかつたが 近くまで行つたら、やっぱり紗唯だつた。

……そのうち、コンタクトにしよう。

液晶画面の向こうから ジュリアーノの縋るような猫目が、視線を動かさずじつとこっちを見詰めていた。

やはりおれには、救われる資格がないのだと その瞬間、ふと過つた。

撮つた本人も……それはない！
と、思いたい。

紗唯は部員じやないが、デジカメ部の連中に、時々写真の編集とかをしてもらひらしい。

編集と言つても、画そのものをイジるんじやなくて、コメントを付けたり、枠組を入れたりする程度だ。

写真部じやなく、デジカメ部かあ。

……いや、写真部は写真部でちゃんと存在してるんだらつけど……時代の流れだなあ。

クロロホルムの臭いが立ち籠る現像室は、確かに紗唯の体に悪い。嗅いだことないから、どんなかわからねえけど……。

しゃぶしゃぶを食つた。

食い放題の店で、清水勝生が奢つてくれた。

「放題」言つほど食えねえけど……他人の金だから、まあいつか。昨日の夕飯で予想外の出費を強いられたので、このタダ飯はラッキーだつた。

金だけ置いて帰つてくれるのが一番ラッキーだが……そつは問屋

が卸さなかつた。

昨夜聞いた話を、24時間経たないうちにそのまま繰り返された。
どうでもいい話を覚えているのは、なぜだろう?
使えないという意味では、学校の勉強と何ら変わりはないのに……。

BSE騒ぎも一段落して、牛肉を扱う業界も復活していくだろう。
特に焼肉は、日本の国民食の最たるものだ。
おれはそんなに食わねえけど……。

末松忠が飲まなかつた（始めからその予定でカローラを出した）
ので、紗唯とはそのまま駐車場で別れた。

レヴィンのエンジンをかけ、携帯を見ると【着信あり】になつて
いた。

最新の着信は無視して 19時35分の、山崎英伸の携帯にリ
ダイヤルした。

13連チャンして7万勝つて、ファミレスでワインを飲んでる最
中だつた。

…… 独りで。

「残念だつたな。来てれば奢つてやつたのに」「
どうしておれと一緒に行くと、勝つてくれないんだろう?
つて言うか、一緒だと勝てないのに、どうして相性の悪いおれを
誘うんだろ?」

明日の健闘を祈つて、電話を切つた。

行かなかつた日は「負けなかつただけ儲かつた」と思つことにし
てゐる。

出費ゼロでは收まらなかつたが、この数日はそれ以上の収穫があ
つた。

行きは高速を使つたが、帰りは 急ぐ必要がないから、下道を
通つて家に向かつた。

よく考えると……ふたりつきりの時間がなかつたような気がする。
勿論、それが目的で静岡まで来たわけじゃないけど……。

これから そのチャンスは、どれくらいあるんだ？

今日中に、家に着いた。

母屋に入ると、ヒンジン音に気付いたおかんが2階から降りて来る足音がした。

20時前に電話をしてきたのは、こつちで間違いないだろ？

「明日、休みなの？」

洗面所のドアを開けたところで、後ろから声を掛けられた。

「仕事」

スリッパを履いて、歯ブラシを取つた。

「連絡しなあかんて」

歯磨き粉を付けた。

「何かあつたと思うやないの」

「おん」

歯ブラシを咥えながら生返事をして、次のドアを開けた。

「……早よ寝やあよ」

おれが小便体勢を整えたところで、ため息をついたおかんは寝床へ戻つていった。

6時間も7時間も寝てられるほど、こつちは暇じゃない。
便りがないのは、無事な証拠だ。

頼りないのは……塩基配列の所為だ。

風呂に入るのは、豪^{えら}く久し振りのよつな気がする。

パンツを替えるのも……。

湯槽^{ゆぶね}に浸かって、歌を歌つてみた。

迷惑がかかるほど、隣近所はそんなに隣でもないし近くもない。

距離的にも……付き合い的にも。

おれは風呂場で歌を歌う人だ。

カラオケは金がかかる。

誘われれば行くが、自分から行こうとは思わない。

デートの時はどちらからともなく

便所でも歌う。

腹式呼吸が快い便通を助長して そんな計算はしていないが、

5分10分の間をもたせるために。

下痢ピーの時は、必ずと言つていいくらい『LET IT BE』

を口ずさんでいる。

サビの部分しか歌詞がわかんないけど……空耳アワーに投稿するつもりはなかつたけど、昔は本当にそう聞こえていた。

どう頑張つたつて、なるようにならぬ。

おれの人生も……紗唯の人生も 。

伴奏とかがないほうが、キーだつてベースだつて自由にできる。歌詞が間違つてたつて、思い込みで歌える。

1人なら……不快な気持ちにはならない。

それ以前に、カラオケにあるのか？

影山ヒロノブの「夢光年」 ってやつ。

ジュディマリ・西村知美・地球防衛組・清水宏次郎 etc……

瞬、赤ら顔が浮かんだが おれの中で水曜日に放映していたような記憶のあるアニメソングを、約30分ぶつ続けて歌つた。

La Vieのお尻にUSBケーブルを接続して、文書をプリントアウトした。

A4用紙に有り余るほど余白を作った真っ黒なMS明朝体は、何の面白味もなかった。

一身上の都合 每回そんなことはない筈なのに……定型句というのは、実に良くできている。

いつ詰問されてもいいよ、ちゃんとした言い訳を用意しておかなければならぬ。

会社にではなく……紗唯に對して。

自分が重荷になつてゐる、と思つてほしくない。

そう考へてゐる時点で、既におれ自身が紗唯を重く感じているのかもしねりない。

でも……それを悟られるわけにはいかない。

どうして人は、働くんだろう?

「労働」と「仕事」では、微妙にニュアンスが違つ。働くことが自由意思で、1ランク上の生活を望む者だけが利益社会に参入するのなら、こんなにも不良債権が膨らむことはなかつただろうし、その処理もスムーズに行えた筈だ。

日本は豊かな国だ。

他国から嫉妬の圧力がかかるくらい……。

だから、社会保障も整備されている。

若者の生産性を、隠居した老人が食い潰す制度を「保障」とは呼ばない。

全ての人が働かなければならぬという切迫感は、パラサイトシリバーの意識改革ひとつで改善できる筈だ。

公的資金だつて【あるべき場所】に注入すれば、決して無駄にはならない。

トドのつまり、トップは金を自由にできる権力を有してはいるが、金の価値をコントロールできていない。

支配者になりたがる特殊な人間は、自分より優れた生物の存在を否定したい筈だ。

だから、金や会社といった無生物に支配されることを良しとして、その秩序の中でトップを目指す。

おれたち凡俗は、ルールを変える力も無く、働くしか生きていく術がないと諦め、人生の大半を労働に費やす。

金融システムも、結局は神ではなく人が創り出したものだから、人の意志ひとつでどうにでもできる筈なのに、崩壊の一途を辿っている。

限られた物を奪い合う手段として、金という交換価値は有効な制度ではあるが、生産力が向上した現代にあって、貨幣はそれほど重要な役割を果たすだろうか？

時代の趨勢は、金を単なる数値のやりとりにしかしなくなる。そこから苦しみや悲しみを読み取れる読解力のある子供たちが、どれだけ育つだろう？

……何で、人は働くんだ？

利益社会に属する人間は大勢いるが……生きがいを感じられる仕事を就くことができるのは、ほんの僅かしかいないだろう。

殆どの人間が流されて、それなりに求められる居場所に落ち着く。

働く理由もわからずに、労働に明け暮れる。

おれも例外じゃない。

だから、今は【強制的な出費】を組むことで、労働のモチベーションにしている。

やりたい仕事が見付からないから、とりあえず学校に行って時間を稼ぐ そんな幼い考え方が、未だに続いている。

まあ、暫くは失業給付金で 8ヶ月で自己都合退職……受給資格あんのか？

だけど、武士に一言はない。

「バスに言いたいことは、山ほど……。」

封筒に、手書きした。

年賀状を返す時と、『祝儀と……香典にしか使わなかつた筆ペンで。

おれん家のプリンターは、そんなに仕事ができるタイプじゃないから。

おれが仕事を辞めても、日本のどこかでは就職するやつがいて幸福も金と同じように絶対数が決まっていて、誰かが幸せになるとどこかで誰かが不幸になつていて、紗唯が死んでも、世界のどこかでは生まれてくる命があつて……もう、寝よつ。

久し振りに、自分のベッドに入る。

自分で働いた力ネで買ったわけじゃねえけど……。

生きるために必要な最低限の衣食住は、名田上国が支えてくれていることになつていいようだが、生まれてから今までのおれの暮らしは、おれ以前に生きてきた森本家の先祖の稼ぎによつて成り立つていて。

それは事実ではあるが、親に敬意を表す気持ちは起こらない。育てることを前提に子供を産むのなら、そのことに関して恩着せがましくクドクド言うのは間違つていて。

と、父に不向きなおれは思う。

感謝されるかどうかは教育方針に左右されるが、どちらにしても……家庭を労働の口実にはできる。

「仕事とワタシ、どつちが大事なの？」

大切なものは、数えきれないほどある。

それらは全て、順番をつけられないくらい大切だ。

と、卑怯なおれは思う。

「一番大切なキミを幸せにするために、仕方なく働いているんだ。それぐらいわかるだろ！」

ありがちな口喧嘩だけど、男のセリフは正しいのだろうか？

もしそうだとしたら……仕事を辞めるおれは、紗唯を一番だと考
えていない？

働きたくないから、紗唯を優先しているフリをしている？

紗唯が逝った後、愛する人の死を無気力になる言い訳に利用して
働くかずして、親類や友人から同情を買つ。

その不労所得で、一生食い繋ぐ。

狡猾な頭脳は、そこまで計算して紗唯を受け容れた。

そして、邪なオレを否定する良心もおれの中にはあることを承知
で、そいつが表に出て悲劇の主人公を演じることまで読んでの行動
だ。

ずっと無職つてわけにもいかないから、働くかなければならぬ理
由を探さなければならない。

再三再四、履歴書の志望理由欄を虚偽で埋めなければならない。

シボウ、リコウ……。

紗唯に詰め寄られることを想定して、余計な詮索をさせないよう
な筋の通つた理由を用意しておかなければならぬ。

そういう葛藤さえも、演出に過ぎない。

なんと浅ましいことか……。

少なくとも、今の仕事は生半尺な奇蹟が起こる可能性が高そうだ
から。

と、恋に不慣れなおれは思つ。

だあ～つ！

自分の枕は眠り辛い。

自分で働いた力ネで買ったわけでも、度胸試しに店からパクつた
わけでも、強運を駆使して懸賞で手に入れたわけでもねえけど……。

フォーリングスター

引継ぎやり労働なんたら法に關わるやら 辞められるのは年末……つてことはないか。クリスマスの前くらいになるだろう。

「そうかそうか」と言つのが、徳川家郎の口癖だ。 おれの辞表を受理した時も、少し間を置いてから、そう言つた。 他には……何も訊かなかつた。

他には これといって特筆すべき出来事は、この月末に起きてはいない。

強いて挙げれば……10月より給料がちよつと良かつたことくらいだ。

基本給は全く変わらないが、プラス歩合のほつでちよつと稼げた。

貢献してくれた人たちに感謝しなければならない。 言葉に出することはないだろうけど……。

メシ・フロ完備の家には一銭も金を入れてないし、ガソリン代も JAのカードで親父の口座から引き落とされている。 それなのに、ここ2ヶ月は なんか預金通帳の数字の減りが大きい。

貴金属系の支払に給料の半分以上が飛んでいく現状を除いたとしても……。

結婚する予定もないのに……。 いや、その資格はもう失つた。

結婚が幸福の最高峰に位置するとは考えていないが……彼女をつた瞬間から、おれの恋愛運の欄には一生【×】が貼り付けられることになると それが、文字通り【罰】だと思つた。

それをおれに悟らせるために、神はおれと紗唯を惹き逢わせたのかもしれない。

おれが犯した【罪】のために、紗唯は病に侵されて　彼女を取り巻く周りの人たちの人生まで、おれは不幸にしている。世の中は自分を中心に廻っているのだと……天動説が、正論に思えてくる。

おれが金を貸すのは、ひどがいーからじやない。

自分が困った時に救われる権利が欲しいから、困っている人に金を貸している。

本当に救われるかどうかなんてわからないが　ダメだった時は、思いつきり神に文句を言える。

何人も救っているおれには、その資格が充分ある。

おれは基本的に無神論者だが、都合のいい時にだけその【存在】を認めている。

信じてるんじやなくて、認めているだけ。

そんな神が、おれを救ってくれるとは到底思えないけど……。

300万もの金が貸し倒れたら、人間不信に陥る格好の言い訳を手に入れることができるだろう。

目の前に飢えで苦しむ子供が現れて見殺しにしたとしても、誰もおれを責めることはできない。

高い授業料だつたと、諦め……られるか！

大学の学費の一の舞はご免だ。

おれが払つたわけじやねえけど……。

とにかく　大家平にはジャンジャン稼いでもらわないと困る。他人に金を貸として、借錢するなんてアホらしい。

言葉に出すことはないだろうけど……。

思えば　宝石屋との取引が始まつてからだ、金運が乱れたのは。

同時期に、女運が突然舞い込んできた。

所長（今のところ、徳川家朗はおれの上司）の知り合いの姓名判断の先生（役場で登録できないような難しい漢字をふんだんに使つた、中国人みたいな名前だつたと思う）に診てもらつたら、貯蓄ができる運勢らしく、おれの財は全て女に吸い取られるらしい。

金との相性が悪いんだろうか？

……女との相性がいいとも思えない。

どちらも、所詮は人間の産物だ。

やっぱり、自然の産物には敵わない。と、思ひこにしそう。

12時38分 メールを受信した。

77円レンタルのお知らせだ。

今日は店長の誕生日で、毎年何や彼かんやイベントをやつしている。と言つても、今年でまだ2度目なだが……。

何故、77円なだかは不明。

星野監督を、未だに引き摺つているのかもしれない。

補足しておくが、愛知県民のみんながみんな中日ドラゴンズファンではない。

野球に興味すらない人だつている。

だから「どこのファン？」って訊いても会話が成立しないことがある。

相手が「ピストンズ」って答えても怒らないように。

当たり前だが、毎年喜寿を迎えているわけでもない。

まだまだ、おれたちよりも若い。

「たち」に含まれるのは紗唯ではなく、おれの幼馴染みでタメの椎礼琉。

このビデオ屋でバイトしている。

彼もいろいろ大変だ。

「彼」とは椎礼琉ではなく、渋谷福之新。

親の事故死で、突然ビデオ屋を譲り受け 経済学部を可もなく不可もなく無難に卒業した直後、経営学に本腰を入れる羽目になつた……タイミングの悪い青年だ。

……可はあるか。

でなきや、学士を修得できない。

つて言つか、おれは会員でも何でもねえのに……新規開拓か？

浅宮要次（ここのつも幼馴染み）にもこのメールは届いている筈だから、たぶん行くだろ？

あいつの場合は、コストパフォーマンスなんて大して関係ないだろ？

うけど……。

おれは……今はまだ、遇いたくない。

あの日以降、雑誌の表紙の「おりおん」という見出しが田に入ってしまうだけで、ちょっと吐き気を催す。

だんだん仕事が増え始めて、忙しい日々を送つていそうだ。

おれのことなんて、もつ忘れているかもしねない。

おれは、どれくらい時間をかければ気持ちの整理ができるだろ？いや……きっと、時間じゃない。

何でそっち方面のことばつか考えるんだ？

桃暖簾の掛かったコーナーに入んなきやいいんじやん。

それでも、やっぱり……止そう。

「西向く侍」というゴロ合わせがある。

31日までない月を、そう表す。

覚えてたつて、何の得もねえけど……。

水平リーベ僕の船。七曲がるシップス、クラークか……使えねえ。

何でこいつ、使えない知識ばつか身に付くんだ？

ゴギョウ・ハコベラ・セリ・ナズナ・スズナ・スズシロ・ホトケ

ノザ
粥
名称を羅列（られつ）できたつて、万病を防げやしない。

粥なんて食わねえし……ゴロじやねえか、これは。

2（に）4（し）6（む）9（く）は良しとして、サムライつて
じおゆうことやねん。

霜月 陰暦の呼び方でも、やっぱ関係ないやん。

まあ……あと11時間も経てば11月は11ヶ月後までやつてこないから、深く考えるのは止そう。

12時49分 メールを受信した。
工口系のやつ。

最近、矢鱈と送られてくる。

どつかの会社から、おれの個人情報が漏洩ろうえいしてんじやねえか？

企業間取つてやつね。

情報公開はできなけれど、情報交換はヤリ放題つてか。
まあ、いいんじやない？

顧客が増えて、それでビジネスの幅が広がれば。

夜中だつたり朝方だつたり

同じような広告だから、送信者は

不規則な生活を送つてているに違いない。

興味がないから、着信拒否設定すればいいのだが……取説を開く
のも面倒臭い。

メールと電話の基本的な機能だけ使えば、それでいい。

それから、時計と計算機と……。

12時56分 メールを受信した。
……忙しかつたことにしよう。

11月30日 これといって特筆すべき出来事は、強いて挙げられない。
……あ。

親父の誕生日か。

幾つになつたか知らんけど。

幾つまで生きるか知らんけど。

たぶん、もう、死ぬまで……働かないだろう。

年齢的に仕事が無いという先入観があるのかどうかわからないが、解雇された後何回か職業安定所（いつからかハローワークって呼ばれるようになった）に通つただけで、今はばく～っと家中でクロスワードパズルを解読している。

当然、無償で。

懸賞に送つたら、ナンか当たるかもしけれへんけど。

働かないなら、家事をやれ。

稼ぎがないなら、タバコをやめる。

あの閑暇に、羨ましいくらい腹が立つ。

これといった用もないのに、おれと同じくらいの時間に起きて、同じくらいの時間に新聞と折込チラシをつて、同じくらいの時間に洗面所を占拠して フレックステイ制度は導入されていないのか？

四人しか住んでなくて、カブるつてどおゆうことよ。

まあ……会話を持ちたくないから、口に出して文句は言わんけど。学生時代のおれも、ブルーワーカーだった頃の親父の眼にはムカツク存在として映つっていたかもしれない。

違うのは あの頃のおれは未知数のガキで、現在の親父は利益社会から除名されて復帰が絶望的なことだ。

若いつてことは、それだけで可能性だ。

少なくとも、雇用主はそう判断する。

嫌な

世代交代だ。

ドライヤーのプラグをコンセントから引き抜く時に、ビクトオテックのデジタルを覗いたら 12月になつていた。

鴉の行水を見たことがないから、確かなことは言えないが……それが浴槽に浸かっている時間は、それに近いほうだと思う。フリーズドライ製法ではなく、生麺タイプで軽く湯通しする程度だと言つたら過言ではあるが、逆上せて立ち眩みを起こすこと が屢あるから、熱い時は特に長湯をしないよう心掛けている。

しかし、今日……じゃない。

昨日は、いつもより長かつた。

入浴剤が乳白色だつたからじゃない。

睡魔と熱戦を繰り広げていたからでもない。
微温湯に浸かっていたわけでもない。

人生の話じゃないから……。

案の定、洗い場と浴槽を隔てる高い敷居に腰掛けて 治まるのを待つた。

何でこの高さなのか、よくわからない。

そこだけ掘るか、建物全体をボトムアップするか……プールみた くすりやいいのに。危なつかしい。

そのうち怪我人が出るぞ。

おれ……じゃなくても別にいいが、今度家を建てる時はバリアフリー設計にしなきやいけない。

プールでおしつこ ケガした人間が言つセリフじやねえけど……。

先生の言つ通り、プールサイドは走っちゃいけない。

「激しい運動は控えるように」と言つた主治医は【その行為】に関して、何か注意事項でも挙げただろうか?

……イチイチ相談も報告もしないか。

携帯の請求書が入っていた封筒の、のりしろの部分を上手に破つてパーティー開き風に広げた。

備えあれば憂いなし。

あれは、ウソ。

どれだけ備えたって、メチャメチャ憂いはある。
おれに限つたことかもしだれねえけど……。

一応　爪を切つた。

AV男優ほどじやないが、おれの中ではかなり深爪の部類に入る。
おれはボーリングをすると、親指（右利きだから、右手）の爪が
変な角度で割れる。

その度に、親指の右上（人差指に近いほう）だけが力けた異形の
深爪になる。

カルシウム不足かもしだれ。

背も伸びなかつたし……。

根本的に、学校給食が間違つてゐる。

毎昼食、ご飯に牛乳て……。

まあ、パンの時もあつたけども。

それがなれば、もつと飲んでいたかもしだれ。

基本的に、牛乳嫌いではないから。

まあ……金を出してまで飲もうとは思わねえけど。

後悔後立ち。

今ある選択肢に、後悔しないものはひとつもない。

十指を、深爪切り男　フカヅメキリオ　状態にした。

柄に付いている普段は使わないヤスリで、引っ掛けがないよう
に面取りもした。

序でに、足の指の爪も切つた。

こつちはいつもと変わらない程度に。

たぶん……ソレで、紗唯を傷付けるようなプレイはしないだろう

から。

爪を切つたくらいで、急にテクニックが身に付くわけでもない。おれには紗唯をイカすことができないだろう。生きることも……。

散乱した破片を中央に寄せて落ちないよう丁寧に丸め、請求書在中をゴミ箱に捨てた。

夜中に爪を切るのは縁起が悪いらしいが……今のおれに不幸を感じさせる事象は、今のおれには見当が付かない。

森本家の家事担当者の訃報を聞いたとしても、だ。これから何かと不便になるとと思うことはあるかもしないが、それが不幸だとは思わない。

望みもしない組み合わせのTCGA^{チミシティグアターニン}を新たに生成した親には、運命に問責される義務がある。

死は、繁殖する生命体全てに強いられる贖^{あがな}つべき当然の報いだ。であるならば、遺伝子を未来に残せない紗唯が今を生きられないことは、不自然だ。

もしも……生命を産む経緯にある行為でさえも贖罪^{շահագույն}の対象になるのなら カラダが繋がり合うことで、素直に受け入れられるのだろうか？

紗唯の命運も……いつか必ず訪れる自分の死も……そして、罪深き彼女の。

観賞し終わったDVDをMebiusから出して、ケースに戻した。

あ。

辞表を提出した日の夜、MURAMASAを購入した。

懷に余裕はないんだけど……かなり思い切った。

HDD機能に魅力を感じたからじゃない。

デザインと……名前の響きで、最初から「コレ」と決めてエイデンに行つた。

ホイールパッドでカーソルを移動させる時、予期せずクリック状態になつてしまふからマウスも。

ホコリで動きが鈍くならない光学のやつ。

少し時間にゆとりができるだらうから、タブレットまで……衝動

買いした。

またもや、田中由行の時間を奪つてしまつた。

テレビの時ほどじやねえけど……。

La Vieはおれの私物だが、最期まで社用で使うことにした。拾う神があれば、その後くれてやるつもりだけ……こんな縁起の悪いプレミアの付いたノートパソコンを欲しがるやつなんて、滅多にいなうだろ？

両サイドのPUSHボタンを押してコネクタをケツから抜き、充電ランプが消えた携帯を開けた。

紗唯がやつて来る。

カローラも同伴だ。

いっちで1泊する。

最新の着信履歴を閉じた。

プレゼントが要る。

誕生日に逢うから、

つてわけでもない。

恋人同士だつたら、

自然に求めるコト。

返信内容は、正夢に託すことにしよう。
ひつやつて悩んでること自体、おれにひとつは夢のよつな話だけ
ど……。

逆夢にならないことを祈つて……。

アラーム設定を確認して、枕許に置いた。

12月1日1時21分 液晶画面の灯りが消えた。

部屋の灯りを消した。

ベッドの角に左足の小指をぶつけて、敷布にそのまま、うつ伏せで倒れ込んだ。

治まるのを、待つた

。

大好きなおにいちゃんと

また……

大好きなマコちゃんと一緒に

声が

セックスがしたいです

ダブつた。

徐々に強暴に鳴る警報に、現実世界に引き戻された。
と言つても、夢は見なかつた。

覚えていないうのが正しいのか？

見ているのかもしぬないが、レム睡眠時に高速眼球運動が映し出す幻影を、今朝のおれは全く覚えていない。
深いところから一気に召喚された感じだ。

相変わらず、目覚めは悪い。

生まれた瞬間に眠つている赤ん坊はいない。
だから、人それぞれ体内時計が違つて当然だ。

強制的に起こされるというのは、自然の摂理に反している。
自分が何時に生まれたのか知らねえけど……。

人間が創り出すモノは、全て不自然だ。

金も会社も、不自然な秩序だから破綻する。
はたん

今度は、もつと遅起きできるトコに束縛されよう。
雇つてもらえば、の話だが……。

職業選択の自由が認められてはいるが、法律なんて無いに等しい。
法律を学ぶ人間だつて振るいにかけられる。

それで法治国家を謳うたつてんだから、笑わせる。

義務教育で法を学んでいないおれが、法に裁かれる義務はない。
民事にしろ刑事にしろ、おれの罪を取り扱ってくれる裁判所があるとは思えないが……。

想像以上に、眠れ過ぎた。

……その程度の問題意識だということなのだろうか？

疲れ知らずの精神がどんなに病んでいても、悩み知らずの肉体は
悠長に休息を欲する。

人生の1クオーターを奪つておいて、アドバイスひとつ無しかよ。
つたく！

まあ……見たかもしぬない悪夢に気付かなかつただけでも、良し
とするか。

さて どうする?

アイフル。

……とりあえず、メシだ。
いや、パンだ。

パンダ?

……白黒はつつきたいね♪

クールランニング

1週間レンタルのDVDを、1泊で返した。
無料だからと勧められるまま会員になつて 80円払つた。
消費税5%を加めると、釣りが渡しやすい金額になる。
但し、これは1本の場合のみ。

2本だと1円、3本だと2円、4本だと3円、5本だと4円、6本だと5円、7本だと5円、8本だと6円、9本だと7円損をする。
小計に対して税率が加算される そういうレジのプログラム。
そういうことが気にならないのか、みんな纏めて御愛想していた。
流石に……10本借りていった浅宮要次は、まだ返却には来てないそつうだ。

早送りして、又きどころを探す。

じゃなきや、ふたつの籠から溢れ出すほどビデオテープを最初から最後まで見ている暇はない。

毎日5400分もドライバーズシートに座つてている浅宮要次が、そのためだけに1週間で600分以上の時間を作れるわけがない。
いくらテレビを搭載したトラックだからって、余所見運転は危ない。

業務上過失致死でもやつた田にやあ……もう借りられなくなる。色んな意味で。

結構なハイペースで借り捲つてこりに思えるが 十川謙哉
も、好きだった。

もじやなくて、はにしないと誤解されるか。

彼の場合は、レンタル専用のビデオじやなく、劇場公開され且つビデオ化された洋画を借りて余暇を過ごしていた。

最後に借りた作品は、子供が主役のばかり3本……それが原因かどうかはわからないが、酔っ払い運転車輛から少年を庇つて轢ひかれた。

おれが返却した時に払った延滞料金は、永遠に催促できない。

惹かれると言えば、そんなに短いスパンで、多くの新人が「デビューする業界なんだろうか？」

浅宮要次は……あいつだけじゃない。

彼ら傍観者は、どういう感性で他人のセックスを観戦しているんだろう？

AV と言つても一言では語り切れないが、その殆どが男性向オナニーのおかずとしての価値しかない。

「しかない」と言つるのは、おれが個人的に作品として、そういうスタイルを望まないし好まないからだ。

視聴者がヤつていいのは、女優との擬似セックスじゃない。

明らかにオナニーだ。

おれも、2回又いた。

本格的なカラリジやなく……手口キとフヨラんのシーンで。

若い頃は、恋愛の延長線上にセックスがあると思っていた。そこに至るシナリオを自分で勝手に考えて、カワイイ女の子と擬似セックスをしていた。

その理想は 好きだったAVギャルの真っ黒になつた乳首を見て、冷めた。

とことん非現実に徹したつてい。

射精した直後に【終焉】^{よいん}が訪れる、オトコのあつけない現実を表現する必要はない。

女性のオーガズムのように余韻がある【エンドイング】を用意すれば、物語としての幅は拡がる筈だ。

これは全くのおれの私見だが、セックスのあるラブストーリーという感覚の作品があつてもいいと思う。

月9とかで放送できる程度の恋や愛は、核心に迫っていない。

いや、寧ろ夢想をテーマにしているのかもしねない。

それなら、セックスのないラブストーリーでも充分に説得力があると言えよう。

どれもこれも　夢のような話ばかりだ。

セックスが至上の恋愛表現だなんて思つていらないおれが、こんな
御託宣じたくせんを並べるのも何だけど……。

ヌケるから泣けるへ　一見、誰も求めそうにない場所にこそ【
市場】はあると確信している。

おれに女性的な感性があるわけじゃなく……ただ、男性ホルモン
が不足しているだけだ。

噛めない食感がイヤ。

つて、そつちのホルモンかよ！

「焼けよ、焼肉なんだから」つて気持ちが先行するから、コッケは
食わず嫌い。

プレイフルハート

「後悔のない人生はない。それだけ重要で意味のある岐路さじに立つて未来を選択するから。現在に於いては、全てが正しくて全てが間違つていい」

脳内で【言葉】が交錯する。

おれの心には自己監理責任能力がない。

だから、頭でしか考えられない。

心のままに生きられるほど、おれは強くない。

いや……強さとは言わないか。

とにかく 時間が解決してくれる問題じゃない。

おれが決めないことには、アナログ時計の針は1パルスも進まない。

選挙権すら、一度も行使したことがないのに……。

おれは支配者じゃないから、いつまでも止めてあつちは流す なんて、器用なことはできない。

進まないのは、「」の奥にある時空を超越した次元で……支離滅裂だな。

ただひとつ確かなことは、おれがどうであれ、紗唯の秒針は一刻と セットされた【アラーム】に向かっている……。

紗唯には残り時間がない。

だから、後悔させちゃいけない。

満たさなきやいけないし、おれ自身も満たされなきやいけない。最悪、そう演じなきやいけない。決断が、同情だと勘違いさせちゃいけない。

だから……そこには触れられない。

紗唯には……罪がない。

だから おれ自身の枷くわを曝さらけ出さなきやならない。

……あれで、良かつたんだろうか？

鼻の下まで湯に浸かって、返信内容を思い返してみた。

着信から約9時間考え抜いて出した結論は【メール】ではなく【手紙】だつた。

紙に、手で書いた、直筆の、文字通り手紙だ。
ポストに投函するのではなく、直接郵便局の窓口にいる職員に「速達で」と書いて手渡した。

抽象的だと信じてもらえないと思つたから、具体的な固有名詞を出した。

見ず知らずのオナを引き合いで出されて……それでも紗唯は、架空の人物だと思っているかもしれない。

おれは、リカを拒んだ。

リカは訊かなかつたから、おれはその理由を口に出さずに済んだ。
リカは自分に非があると思い込んでくれただらう。
だからおれは、リカの仕事を言い訳にできた。

「勿体ない」

おれとリカが付き合つていたといつ事実を知つてゐる連中が
挙つて吐くセリフは、全くその通りだと思つ。

おれと過ごした数ヶ月は、リカにとつて 全くの無駄だつた。

真実は……リカだつたからぢやない。

相手が誰だらうと、おれは性交渉を避けるつもりでいた。

おれには生まれつき枷がある。

極めて肉体的な欠陥だ。

イブが禁断の果実を口にしなければ、その系譜にあるおれだつて
羞恥心に気付かないガキのままでいられたかもしれない。

体格がガキと変わらないことは……もう諦めている。

そのことに関して、両親を責める気はない。

確かに両方とも小さいほうだけど、こいつは身長はと違つて、遺伝ではなく突然変異による代物だから……彼らに過失はない。

寧ろ感謝している。

それすらも言い訳にすることができるから……。

しかし本当の真実は、極めて精神的な枷にある。

これは、生まれつきではない。

森本誠を形成するにあたって、誰かの影響を受けた記憶はないから……おれ自身の選択ミスの罪重ねだ。

おれにも恋愛は許されているんだと気付いた時には 修正する選択肢が、どこかに消えてなくなつていった。

50・50が誤作動を起こして、みのもんたが焦る姿が目に浮かぶ。

おれは……セックスが怖い。

現実は、理想を汚す。

おれの憧憬も、パートナーがあれに抱く幻想も 。

喘いで歪む醜い表情が嫌い。

それほどの快楽を与える自信がない。

他人のセックスを観賞して入る自慰行為は、そういうた不安を払拭するためだ。

だから、射精した直後、どうしようもない罪悪感に襲われる。独りじゃ、相手を満足させたという達成感を得られない。

それでも、求めようとはしない。

セックスが切つ掛けで嫌われる喪失感のほつが、好意を利用して肉体関係を結ぶ快楽よりも先行してしまつ。

全ての人間はセックスで生まれてくる。

故に、セックスに不向きな体と心が同居してしまつと、存在そのものを全否定されるような感覚がある。

セックスをしているおれのイメージが、わかない。

セックスが、わからない……。

不注意に息を吸つた瞬間 鼻から湯を飲んで、噎せた。

H口系メールは1件あつたけど……他はない。
いつもがメールを返していなければ、絶対。
もう寝ている なんてことはだらう。

昨日が今日の早い時間まで起きていて（わかり辛い言い回しだな）
メールを送ってきたんだから、たぶん今日もすんなり眠れるとは思
えない。

おれ以上に不安があるに違いない。

「手紙を郵送しました」というメールを送信すれば、ちょっとは気
が紛れるのか？

……いや、余計に気なるだろ。

とにかく 明日だ！

紗唯との実現が現実味を帯びてきて……今ではもう有り得ない、
リカとの過去を想つ そりやつて現実逃避する自分に、嫌気が差
している。

性格を変えるのは、簡単じゃない。

いや……変えられる運命にある人間にしか無理だ。

おれは……変革なんか、これっぽっちも望んじやしない。

目の前のことを考えないように、楽なほうへ楽なほうへ。

「若いうちの苦労は買ってでもしろ」と、年寄りは言つが……余裕
がない。

財政難という意味では、これも立派な苦労と言えるかもしれない
けど。

超高齢化社会だからって、与えられるだけの老人が文句を言つ筋
合いはない。

今、おまえらが苦労しろ。

少子化のサイクルは経済的な豊かさが見込めれば、無能な政府が
何の策も講じなくてたって勝手に歯止めが掛かる。

あの時は……都合良く、十川謙哉が逝ってくれた。

だから、暫くは力避けたという現実を忘れることができた。
友人の死でさえ言い訳にして……おれは薄情だ。

罪は　おれ以前に始まっていた。

おれは、イブよりも初心だ。^{ウブ}。

裸であることの　心を丸裸にされる羞恥心を払拭しない限り、
長い時間を他人と一緒に過ごすことなんてできない。
いづれは　種を繁殖させる術が、セックスではなくなるかもし
れない。

しかし、現段階において……おれのような人間は、世代と世代の
繋がりに存在するべきじゃない。

昔聞いたことのある、命の蠟燭の火の話　死にかけのやつと交
換できるなら、そうしてほしい。

樂になりたい。

今日は　今日のうちに、毛布と掛け布団を頭まで被つた。^{かぶ}
すぐに眠れるかどうかは別。

かなり寒いから……ファンヒーターの灯油、もつたいないから。

ドライブスルー

おれの外廻り営業は、先月末で打ち切りになつた。
営業所の中に缶詰だ。

売れつ子マンガ家になつたら、こんな感じかもしれない。
物件のデータ整理やら引継ぎ用の書類やら何やら 事務的な作業から解放されず、定時まで只、管ひたすらテスクワークに勤しんだ。
ちょっと遅めの昼メシを食いに吉牛へ出張つただけだ。
歩いても疲れない程度の距離にあるのだが、車を出した。
何となく……洗車してみようという気分になつたからだ。
今まで休みの日に自分でレヴィンを洗つていたが、時間が作れ
なくて……それ以前にやる気も起きなくて、ここ2ヶ月くらい洗つ
ていなかつた。

いくら看板に「布」という文字が誇張してあつても、キズが付き
そうで怖かつた。

金を出してまで、わざわざリスクを背負う必要もない。
が……初めて、ガソリンスタンドにある洗車機に通した。
預金通帳を出そうと思ってダッシュボードを開けた時、藤吉秀彦
にもらつてすっかり忘れていたタダ券が出てきた。
一車単56.3倍に1万円賭けて儲かつたお零れいれが、これだ。
会社の後輩（あつちが結婚を決めた時まだこつちは退職が決まつ
てなかつた）として招待されているから、来月にはご祝儀も出さな
きやならない。

相当の引き出物をもらわないと、割に合わない。
まあ……もらいモンだから文句は言えねえけど。
出光に入ったのも、これが初めてだ。給油もせずに……という罪
悪感は、おれにはない。

コンビニでトイレだけ借りたり立ち読みだけして店を出たりする
ことは多々ある。

そういうのも全部ひつくるめた【サービス】だと思つてゐる。

今すぐ必要としないハイチューとかを「水道代とトイレットペーパー代の足しにしてください」という勘定科目で無理に買つことはない。

泡混じりの集中豪雨に見舞われている最中、メールが届いた。

普通の……だった。

心配して損した。

金を賭けたわけじゃないから、それほどの大打撃は被らなかつたけど……路駐した時に見廻して見たボディは、綺麗なものだつた。何週間か何カ月か後に 300円を捻出できたら、たぶんまた利用するだろう。

労力を使わない、楽なほうへ そこにビジネスチャンスはあるのだろうが……愛車への想いが、だんだん薄れしていく。

愛社精神も稀薄だし……。

給料が入つても、相変わらず並だが……初めて「ダクダクで」と注文してみた。

肉の量が少なく感じた。

いや……玉葱が多い分、実際にそうなのかもしれない。

店内では紅生姜と一味が擗り放題なので、食べては足し食べては足していった。

底の米まで汁の味が染みていた。

この生活が、たぶん あと2週間くらい続くだろう。

……普通の「並一丁！」で、いつか。

……普通を裝つて、返信した。

エンジニア

その日の予定が完了すれば、職人さんはすぐに帰る。時間が余つても、決められた以上のことはやらない。明日できることを前倒しして、今日の時間を潰すようなことはしない。

計画も現実的だし、実現する腕も確かだ。

スジ屋並みの段取りの良さだ。

スジ屋さんっていうのは、電車なんかのダイヤグラムを組むお仕事をしている人。

限られたレールの上で、正面衝突しないようオカマを掘らないように、運行表に線（スジ）を引いていく。

緊急車輛のことも考えて、ちゃんと空白を作るテクニックを必要とする。

そういうオモテはないダイヤを……裏スジと呼ぶらしい。

流石は、職人。

改装期間に余裕があり過ぎるのも、一理あるが……。

ガラス張りの店舗を通りから覗いた時には、既に業者はみんな引き上げていた。

照明は点いてない。

真つ暗だ。

もう 冬だ。

おれが大家平のフラツツに着いたのは、エンジンを切る前に見たレビューのデジタルクロックで、18時27分 今朝ケータイの時間に合わせたから、間違っていないと思う。

兵庫県明石市まで行って、時刻調整したわけじゃねえけど……。

管理人室には、管理人と 遠方からの客人がいた。

福建省から来た留学生は、奢つてもらつたサントリーの烏龍茶をどう評価しているのだろう？

翻訳家になつて、日本の時代劇を中国に広めたい それが、陳さんの夢だ。

おれは日本の文化になんてあんまり興味ねえけど……内側にいるから、良さが見えないのだろうか？

もしもおれが中国人に生まれていたら、カンフーを見てスゲェとは思わなかつたかもしない。

もしもおれがフランス人に生まれていたら、三銃士の戦闘スタイルがカツコイイとは思わなかつたかもしない。

もしもおれがイタリア人に生まれていたら……スプーンを使わずに、スパゲッティを上手いことフォークに絡ませて食べられるようになつていたかもしない。

それにも……こんな複雑な言語、よく覚えよつとするもんだ。我輩は猫である。

おいどんは西郷でごわす。

拙者服部半蔵と申す。

あつしは遊び人の金つてえケチな野郎でさあ。

ぼくドラえもん。

オラ悟空。

わしゃ亀仙人じや。

ぼつくんは大金持ちぶあい。

私は花の子です。

俺の名を言つてみひ。

自分は不器用ですから。

おいらはドラマー。

ウチだけを見てほしいつちや。

1人称だけでも、まだまだあるのに……。

あれだけの人口が、みんながみんな勤勉になつたら、あつという間に世界のトップになれる。

何だ彼んだ言つたつて、最終的にモノを言つのは、やはりマンパワーだ。

そういうことにしておけば……日本経済衰退の言い訳になる。

陳さんと入れ替わりに　末松家が到着した。

時間潰し（おれ待ち）に、インテリアを見て廻っていたそうだ。イームズとかヤコブセンは聞いたことがあるが、サーリネンという名前は初めて聞いた。

ウームニアが有名らしい。

ウームって、何？

う～む……。

って言つか、ミッドセンチュリーは毎世紀訪れるわけだからこれからも50年代前後に革新的な流行が生まれたら、そのワードだけじゃ、何千何百年代なのかわからなくなる。

まあ……細かい知識なんかなくて、良いデザインの物を「ハイ！」と思えるセンスさえあれば、生活はより豊かになる。

紗唯の学校の制服は、何年か前に卒業した生徒の原画を基に、遺志（？）を受け継いだ美術部の後輩たちが発足した制服製作委員会（顧問はなぜか、数学教師）が年内に完成させ、翌年の新入生から採用されたらしい。

ヤンジャンの制コレでアイドルの卵が着てもおかしくないくらい、かなりイケてるデザインだと思つ。

水色のカッターシャツ。

蝶々結びにした襟の青いリボン。

紺青のジャケット。

インディゴとクオーターグレイが交互に重なり合つチェック柄のスカート。

膝下まである白いルーズソックス。

淡いピンクのスニーカー。

茶がかつたストレートヘア。

透き通るような、真っ白い肌。

珍しく両手で紙袋を提げていた以外は、至つていつもと何ら変わらない筈の紗唯だが……何かが違う気がした。

レヴィンの錠を遠隔操作で解除して、おれは助手席のドアを開けた。

カローラの助手席側の後ろのドアから私物を出した紗唯は、レビンの助手席に膝を突いて後部座席にリュックを置いた。

後ろ姿を見て 違和感の理由が、理解できた。

バッグが違つてただけじゃなく、バックも違つてた。

15センチか20センチか……腰の上まであつた髪が、短くなつていた。

自然に縮むことは、ない。

タモさん風に「髪切つた?」と訊く そんな機転が利くほどの

余裕が、おれにはなかつた。

「生えなくて悩んでいる人が、世界中にどれだけいると思つてんだ?」

シユナウザーダは毛が抜け難いといつマメ知識も、ヅラ……すらつと思い浮かばなかつた。

女性が髪を切る時というのは、大概……おれの所為だ。あの手紙が、そうさせたに違いない。

歩んできた歳月を物語る象徴を、約1ヶ月の誤りを清算するため に 紗唯は、心機一転を計つた。

まだまだ寒くなるから、バツサリショートとはいかなかつたようだけど……。

大家平は、カローラの助手席のドアを閉めた。

末松忠は、カローラの運転席のドアに鍵を挿して回した。

施錠を確認して、アルコール班はそそくさと街のネオンに溶けていった。

御見合いに付き添つた親のよう……。

そして 若い者同士が、ふたりつきりになつた。

沈黙を破つたのは、

「ハッピースディ」

……若いほうだった。

「ハッピー、バースデー」

眼鏡を掛けていなかつたから、紗唯の瞳がはつきり見えなかつた。いや、見えなかつたのは……逸らしていたからだ。

「はい」

両手を伸ばして胸の高さまで上げ、紗唯はおれに紙袋を差し出した。

右手で受け取つて、中を覗いた。

左手で掴み上げると、それは解れて拡がつた。

「手編みだよ」

マフラーだつた。

幸福の黄色い……あ、車のじやないよ。

人力じや、解すのムリ。

おれがバースデープレゼントをもらつのは、これが初めて……じゃないか。

けど、女性からは初めてだ。

おかんやおばあは、分類学上別の類たぐいに属する。

紗唯が、残された時間の全てをおれと過ごさなかつた理由のひとつは、これかもしれない。

すごい先見性だと思った。

すべきことを時間ごとに、1個1個区切つていけば……おれも、計画的な人生を送れるのだろうか？

おれは……何も用意できなかつた。

それどころじやないくらい、バニクつてた。

夏休み最終日に、40日分の日記を書いたり2学期が始まつてから自由研究に取り掛かる そんな心境だ。

【おれたちの誕生日】のシナリオは、前日になつて急遽描いたが……【紗唯へのバースデープレゼント】は、何ひとつ用意してなかつた。

いや……これでいいんだ。

カタチとして残る物なんて、きっと紗唯は……。

「ねえ、して」

と言われ おれが無造作に首に巻いたマフラーを、紗唯はいい感じに整えてくれた。

自分じゃ見えねえし、それ以前にセンスがねえけど……。新妻にネクタイの曲がりを正してもらつて、田那のよつたな感覚だつた。

狭い路地にも歩行者がいて、少し照れくさかつた。

黒いスーツに黄色いマフラー 現時点でおれが自分の姿を見る術は、紗唯の瞳を鏡にするしかない。

しかし、その照れ笑いが……至近距離で、紗唯から眼を逸らす口実にもなつた。

あ、ドアミラーに映つてる。

でも、裸眼だから見えない。

マフラーなんていうファッショニアイテムを 然も、オシャレさんみたく巻くなんて、初めての経験だ。

中尾彬が特許を取つてたら使用料を払わなきやならないので、あの真似はしない。

小学絞4年生の頃、ブランコ揃つてぐるぐる回す遊びが一過性で流行つた。

給食のミルメークを吐いた子もいた。

良い子は、真似をしない。

「サンキュー」

軽く礼を言つて、フロントから運転席側に回り、ドアを開けた。ギアが抜けていることを確認して、エンジンをかけた。

『スピード』が流れてきた。

まだ走り出してないのに……。

もう 12月だ。

今月いっぱいは、クリスマスソングを聴く機会が多くなるだろう。右下にルージュを滑らせたような筆記体の英字（読みない）が踊る白い紙袋を折り畳んで、ヘッドレストの耳元から後部座席に落と

した。

助手席に乗つてドアを閉めた紗唯は、シートベルトを締めて背凭れに深く収まつた。

マフラーをしたままドライバーズシートに座つて、おれはエアコンを入れた。

……何だろ？

まだ、違和感が残つてゐる。

暖氣運転の間を持たせるための会話を探した。

「あの、こと……だけさ」

核心に触れた。

「高級なところでしょ？ 楽しみだなあ。悪いなあつて思つたら悪いから、今日は思いつきり楽しませていただきます」

「いや、メールじゃなくて……その……」

「紗唯に出逢つ前、おれはリカという女と付き合つていた。おれには生まれつきヘンの所にアザといふか……ホクロの集合体みたいな醜い物体がある。それを見せたくないくて、裸の関係を持たずに別れた。求めたり力を、おれは拒んだ。でも、それは言い訳に過ぎない。本当の枷は……おれがセックスに怯えていることだ。子孫を残す手段は、生まれながら遺伝情報として体が覚えているだろう。でも、考えてしまつ。頭では、どうしていいかわからない。リカのことは、紗唯と同じくらい好きだつた。それなのに……隔心の革新には至らなかつた。だからおれは、セックスを許されない男だと思つていて、手紙に託したおれの【初告白】を、紗唯は完全に暗記していく、空で言つた。

何度も読み返したのか 一読しただけかも知れないが……信じてくれるだろ？

ぽんやり眺めていたウィンドウスクリーンの奥から、視線を外した。

「紗唯は、天使だよ」

アッシュトレイに伸ばした左手が、一瞬止まつた。

「恋のカミサマの、おつかい」

眼鏡を、掴んだ。

「おにいちゃんも許されてるんだって、伝えに来たの」

視力が、急激に向上した。

「それが終わつたら、天国に帰るの」

ヘッドライトを、点けた。

「役目を果たすことは、もう運命で決まつてるんだ」

確信した。

「だから紗唯には、ちょっとしか時間がないんだよ」

この天使の想いを救い、自らの心も解放される それが、理由も知らずに生まれてきたおれの…… 最初の存在意義だ。

背負う苦悩の絶対量が、紗唯とおれでは月と鼈だ。

おれがどんなに肉体的な醜さや精神的な脆さで、人生をネガティブに考えていようと じわじわと歩み寄る死の足音が聴こえてしまつ恐怖には、到底及ばない。

三十年後に生きてこむことが当たり前のよう、みんな老後の年金を心配する。

生命保険の予定利率の引き下げを憂える。

明日も見えないこのご時世に……自分に未来が訪れることを信じて疑わない。

そいつらと同様に、おれには【必ず死ぬ】という切迫感も、圧迫感もない。

「紗唯も、許してもらえないかなあ」

シートポジションを最前列まで出した。

「おにいちゃんは優しいから……同情で、だったらエッチしてくれよね?」

シートベルトを締めた。

「大好きなおにいちゃんと、セックスがしたいです」

紗唯の声だけが、響いた。

「同情なんかで抱いてほしくない」

た。

おれがそれを言葉にしなくとも、紗唯は自分の状況を全部把握している。

だからおれは、ワルモノにならなくて済むし ワレモノのような……体も心も、曝け出さずに済む。

しかし 覚醒した。

払拭されない違和感は……おれ自身が作っていたカベだ。紗唯に死を感じさせないよう そう努めて接することで、おれは紗唯に辛い思いをさせていた。

打ち明けてくれた事実を……恋人として受け容れた時点で「死」は禁句ではなくなつた。

たつたそれだけのことに1ヶ月弱も氣付かず……紗唯にとつては、1秒だつて無駄にできない大切な時間なのに……28になつて漸くなんて鈍感なんだ、おれは。

今こそ、おれの中の弱さを廓清する瞬間だ。かくせい

漸く、朝起きてから、今日初めて、逸らすことになく 末松紗唯を見詰めることができた。

様々なメディアを通して、おれは何度も【そういうこと】に触れてきたと思つ。

彼らの境遇が遠すぎて、リアルを感じられなかつたのかもしけない。

だから、こんな単純なことに、今まで氣付かなかつた。

どんな苦惱を抱えようと、どんな不幸を感じようと 世界が終

わる虚無に勝るコンプレックスはない！

俯く横顔は……潤んだ瞳が、今にも溢れ出しそうだつた。

「……下手、とか言つなよ」

振り向いた衝撃で 左頬に、ひとしづく零れた。

「おれなりに……頑張るから」

自然に笑顔が零れたような気がするが、水面に映るおれの表情は

漣に呑まれて、はつきり確認できなかつた。

そんな気がしたのは 天使が微笑んでくれたからだ。

おれはサイドブレーキを下げた。

ギアをローに入れ、踏み込んだ左足を半クラ状態にして、ブレーキペダルに固定していた右足を緩和させようとした。

エンストした。

3回免許の更新をしているが、たま～にやる。でも、これにはれつきとした言い訳がある。

「どうすんだよ、事故つたら」

左手の甲が、温もりで覆われていたからだ。

「おにいちゃんといつしょなら、いい」

両足に力を込めた。

「セツクスしなきや、死にきれねえよ」

ギアを抜いた。

「ここでしょつか」

回転音を復活させた。

「車内での飲食及び淫行は禁止されておりま

「ピー ピー」

……音が鳴つた。

リバースに入つてもうた。

最近では滅多にやらなくなつたのになあ。

頻度的には、給油時にトランクを開けるくらい。

昔は、よくやつた。

たぶん前世では、ヤリ捲つてた。

だから恋愛の女神は、おれに枷を嵌めた。

思考能力に長けた種に転生させて 過去に罰を下さるために、

現在にはありもしない罪の意識をでつち上げた。

しかし、その刑期もやつと終わる。

娑婆の空氣を、思いつきり

。

「ありがとね」

小さなプレッシャーが圧し掛かる左手で、ミッションを握り回した。

「明日そのセリフを聞けりやいいけどな」

思わず礼を言いたくなるくらい納得のいくセックスができれば「ありがとう」を聞けるという意味でこう言つたつもりだが、聞き様によつては……というか、このシチュエーションの場合、別の捉え方をするのが自然だろう。

おれの発言は、アホ政治家に匹敵するくらい軽過ぎる。握る指が、股に入つた。

「紗唯も……がんばるから」

15分もアイドリングしたのは、これが初めてで 充分に、あつたまつた。

ディナーパーティー

ここに来るのは、初めてじゃない。

だから……ゴージャスなレストルームを見ても、驚かない。
レバーを引くだけで自動的に三角折りができるトイレットペーパー^{ホルダー}を見ても、もう驚かない。

金縁の大きな洗面鏡に映つた小顔の男に「おまえはここにいてもいいレヴェルの人間だ」と言い聞かせた。

リカと別れて 宝石屋の顧客であることを後悔しかけていたが
……ステータスだけなら、申し分ない筈だ。

オートクチュールで仕立てた50万以上するエルメネジルド・ゼニアのスーツ。

サファイアをあしらつた60万くらいのカフス。

袖ボタンのところに切れ目がある5900円のカッターシャツ。
その時一緒に同系色で揃えた2900円のネクタイ。

フレーム+レンズで4500円の眼鏡。

散髪代1700円の癖毛をセットする380円のジエル……。

今はまだタイタックだが、いずれジルコンの地位を引き摺り下ろしてエンゲージリングに落ち着くだろう税込み126万（現金一括！）のダイヤモンド。

目立つた言動を慎めば、キャッシャーの脇で仁王立ちする黒服を纏つたウェズリー=スナイプス似の用心棒に撮み出されることはないだろう。

赤い絨毯を歩むツヤ消しの靴も、頗る軽快だ。

流石に「シユーフィッター」と豪語するだけのことはある。

田中且行……の知り合いには、感謝しなければならない。

給仕さんに椅子を下げるも、おれは席に腰を落ち着かせた。

日常生活に使用人がいないおれは「どつもどつも」といった感じで頭を下げる。

つて言つんじゃない。でもあんた、低いのは姿勢じゃなくて身長ですから。残念！ 最上列の棚がレンタルできません、斬り！ 見下ろした窓の外には、いかにも都会チックな光が踊つていた。世界遺産に認定されているドナウ川周辺のような絶景ではないが……高級感溢れる雰囲気は、そこそこ漂つている。

カツプル用の席が15口、夜景が愉しめる窓際に配置されている。その内周に、家族用だか接待用だか……大きめのテーブルが3つ。床面積の割には、そんなに席数は多くないため、席間が広々としていてゆとりがある。

今しお通り抜けて来た回廊に飾られたホアキン＝トレント＝リヤドの薔薇の右奥に分岐するVIP専用っぽい扉の向こうにも、セレブな感じの豪華な席があると思われる。

燭台も、おれたちのなんかより何倍もでっかいヤツが並んでいるだろう。

間違いない！

厨房へ続く通路の左手（おれの席から見て）にささやかなステージが設けられていて、ピアニストらしき女性がささやかな音色を奏でている。

クラシックに造詣が浅いおれにとつて、初めて聴く曲だ。衣装は「セセセカ」とは言い難い。

……どこの見てんのよ！

高い天井には写実主義（何となくそんな感じ）の壁画が描かれていて、高そうなペンダントタイプの縦長シャンデリアが5本、葡萄が生つていてるみたいに吊るしてある。

……絵画にも造詣は深くない。

けど、アルフォンス＝ミュシャが描く女性の絵は好き。タロットカードっぽいのがいい。

聞いたところによると、彼の作品には模作が多いらしい。

模写と力がてるわけじゃなくて、マジで。

絵画は眼で判断できる価値なんだから、贋物を掴まされても

幸せだと思つ。

一生、気付かなければ……。

紗唯は、まだ席に着いていない。

シナリオ通り

準備段階だ。

それを遂行するために、おれは現地まで^{おもむ}赴いて予約を入れた。前日にも拘わらず、空きがあった。

デフレの波がなかなか退かず、バブリーな人間が少ないからか……おれたちの誕生日が、世間的に【特別な記念日】じゃないからか……単に暦の上で、平日だからってだけかもしれない。って言うか、デカい。

写真よりも、かなり。

まあ……12・1型の液晶画面と比べりや、当たり前か。

吹き抜けと言うか、メゾネットと言つか……サーキュラー階段を上つたところに、ファイットイングルームがある。

ちょうど、厨房の真上辺りだつ。

紗唯は今そこで、衣装合わせの最中だ。

ホームページで貸し衣装のサービスがあることを知つて、利用することにした。

サービスつて言つても、ケチなおれが飛び付くよつな……無料じやねえけど。

それだけなら電話でも済むが……それだけじゃないから……ソレを持参して、昨夜訪れた。

彼らの居場所は、薄暗い筆箋たんすの中じやない。

多くの人の目に触れることで、美しく輝ける。

これで少しは……元が取れる。

プライバトルマリンのプラチナネックレスは、おれ自身が身に付ける機会を生むことができるから、ちょっとずつ減価償却できる。しかし、女物はちょっと

?

どこを見渡しても……時計がないな。

時間の束縛を忘れさせよつといつ店側の配慮だらうか？

19時47分。

あ、忘れてた。

紗唯が電車に揺られておれに逢いに来たあの日以降、紗唯と会つ時は必ずその直前に電源をOFFつてた。

メールはやつているから、送受信の一瞬なら氣分を害することはないだろうが、会話中ずっと基地局から送られてくる電波は、纖細な体に支障を来す。

鈍感な本人は、全くその痛みがわからない。

喻えるなら　　犬の鼻前で、すかっしつ屁を放つような……そんな罪悪感。

留守電モードにこえしておけば、長時間の有害電波に蝕まれる心配はないと思つ。

しかし、念には念を。

それなのに、今日に限つて、何故か、入れっぱなしにしていた。

急用が舞い込んでくるのを期待して？

そうすれば、逃げる口実になるから？

覚悟を決めろよ、いい加減。

左手の親指でフリッパを開け、電源を長押ししてから、ケータイを右胸の懷に戻した。

画面が暗転する直前、一瞬着メロが鳴ったような気がするが……

ほかつとこう。

今これから起こる奇跡よりも重要な事件なんて、おれを取り巻く環境の中では起こり得ない。

窓の外は、既に華やかな街のネオンを着こなしている。

都市圏に於ける【横】への拡がりが飽和状態になり【縦】への意識が強まる近代にあつて、この店は超高層建築物とは言い難い。

しかしながら、地上25メートルの夜景は結構口マンティックだ。

高級レストランという雰囲気がそうさせるのかもしない。

最上階から展望する景色もまた格別だろうが……縁遠い。

食前酒でさえ拒んだおれが、カクテルラウンジなんて……。
それからもうひとつ 最下階にも縁遠い。

ダイニングエリアの下には、何度も耳にしたことのあるブランドショッピングが店舗を列ねている。

ことを、エレベーターの案内図で図にした。

買つもりじゃなく、ただ見るだけのウインドウショッピングができるなさそうな雰囲気なので、このフロアで降りたことはない。つつても、まだ2回しか来てねえけど。

……もう、来れないかもしねりだけど。

いろんな意味で。

3層の立体駐車場を挟んで、地下にはカジノスペースが設けられている。

本当に空間があるだけで、中はがらんとしているらしいのだが、実際のところはどうだか。

ロバート＝レッドフォードみたいな中年紳士が、連日のよう』『

幸福の条件』みたく豪遊してんじゃねえのかあ？

……まあ、ここは管制室にいた老健な姫の話を信じよ。

法案が通る前から、設計段階で確保しちゃう店側がすごい。すごい先見性だったと思える口は、一体いつになるのやら……。とにかく、この建造物は言わば「高級複合施設」だ。

何はどうあれ そこにおれたちは、いる。

後方で老夫婦（たぶん、夫婦）のよめきが聞こえて、振り向いた。

着付けの女性（たぶん、そう）に左手を引かれて、右手で「ゴールドの手摺を辿りながら、円形階段を下りてくる。

付き添いは右手でスカートの左腰の辺りを持ち上げながら、半身の体勢で下りてくる。

それに劣らぬ、慎重に……プリンセスは履き慣れない不安定なミユールで、一歩ずつ。

細い右足の踝に輝くアンクレットが階段を下りきったところで、髪をやつてくれた女性（たぶん）が裾を上げる手を離して、エスコートする手を左から右に持ち替えた。

右は脇脛の辺り、左は引き摺るか引き摺らないかの丈のひらひらスカート。

それとは対照的に上半身はスリムなデザイン。

大胆に露出した肩をシースルーのショールが覆う。

結び目が鳩尾辺りにあって、そこに咲き誇る花が印象的だ。

大きく空いた胸元とのバランスも良く——一際引き立ててくれる。

……いや、谷間じゃなくて。

谷間はなくて……。

淡いブルーのドレスが、テーブルの前に到着した。

「どう？」

裾を上げて、紗唯がゆっくりその場で回転する。

大胆にカットされた背中に、肩甲骨がうつすら浮かぶ。

アップにした髪の下から初めて見る頃と金の髪飾りが数秒 そ

して、両髪の後れ毛が正面を向く。

耳朶の下にも 摆れている。

大人っぽいメイクが、はにかむ。

「いいんではない？」

引いてもらつた椅子に、ゆっくりと腰掛けて ヒロインは一息吐いた。

「座り難そうだな」

腰を浮かせて、何回かポジションを微調整する。

「下のほうがもつこりしてゐる」

「下のほうがモツ「リ言つた」

マメうんちく ネックレスのことを、韓国語で「モツコリ」と

言つ。

……クスクスつて、笑われた。

「とってもお似合いですよ」

紗唯だけじゃなく、おれも含まれてるのか……それとも、おれた
ちの会話が分相応に低俗だつたから皮肉っぽく……自らテーブルへ
案内したんだから、そこは認めないか。

丁寧に一礼して、コーディネーターは掃けた。

「だつて」

微笑は 無邪氣だ。

「仕事だから……決り文句だよ」

本当に素敵ならいいが、そうでもない時は……他人を褒める仕事
は、おれにはムリだ。

正直ジイさんだから。

「なんか、紗唯じゃないみたい」

右手で取つた空のグラスを顔の前に近付けて、16歳の少女が付
け睫毛の下から化粧を覗き込む。

アングルをいろいろ変えて、薄い藍色のアイシャドウが何度も瞬
きをする。

本当に生まれ変わつたんなら……すぐに死が訪れる事はない。
間もなくテーブルにやつて来た女性が、おれのグラスに水を注ぐ
のを見て、紗唯はグラスを元の場所に戻した。

が、それとは違うグラスにミネラルウォーターが注がれた。

おれは彼女に、同じ物で、何か料理に合う……ソフトドリンクを
お任せした。

高級レストランのソムリエールに、ノンアルコールを選ばせる
何て贅沢な起用だらう。

料理もお任せにした。

昨日メニューを見せてもらつたが……わからない。

フランス語っぽい筆記体も、その下に訳された日本語の意味もさ
っぱり。

できあがつたカタチが想像できない。

マリネや、ラズベリー、ラジビューラ……何？ 地名？ 人名？
昨日の時点で、料理長のお奨めコースを注文しておいた。
支配人に「予算を訊ねられて、平均的な額を訊き返した。
椎礼琉の店の倍の倍の倍くらいだった。

平均なんだから、下はいる。

だから、下回つたって恥じる事はないのだが……おれの中の【ええ恰好いいなおれ】が勝手に声帯を奪つて……中のちよい上くらいの価格設定で、宜しくお願ひしてしまった。

これから職を失うつて時に……。

いや、「失う」とは言わないか。

自ら望んで、時間創造するわけだから。

紗唯の左手が、グラスに伸びた。

中指の付け根 ちゃんと輝いている。

これで、全て確認した。

昨夜おれが店に預けたパールたちは、今漸く 紗唯に活かされている。

ネックレスとイヤリングのセットが収めてあるいは香りのする桐箱の蓋の表には、誰が命名したのか「花球真珠」と書かれており、その金色の達筆は誇らしげに光っている。

流石に……値が張るだけのことはある。

パールのファッショングランジングは、デザイナー曰く「指が長く見える」のが特徴らしい。

それにしても……1個だけなのに、こいつの単価が籠棒ひょくばうに高いのは何でだろう？

……テツ&トモが、リフレインする。

まあ、いいか。

どうせ……おれの資産じゃねえから。

宝石は、おれ自身の資産じゃないと思つている。

金を出すのはおれだが、おれ自身のために金を遣つわけじゃない。だから、どれだけ金に困ることがあっても売り払うことはない。

おれが真の価値を知る必要はない。

知らないほうが良かつたと、後悔するかもしないし……。

貰ってくれる嫁さんが喜んでくれりや、それでいい。

おれを貰ってくれる嫁さんが現れるかどうかが、微妙だけど……。シャルドネのジューースが、ワイングラスに半分くらい入ったところで、滝の流れが止んだ。

赤ワインだつたら少しグラスを揺すつて、空氣に触れさせてから

……今は関係ないか。

つて言つか、おれには関係ねえか。

「じゃあ……」

グラスを手に。

「キミの瞳に」とか言おうかなあと思ったけど……日本で5千番目くらいに似合わない男だと思ったので、止めた。

「……ふたりの誕生日に」

「かんぱあい！」

口元の表情は大きく、声は控えめに 紗唯がグラスを掲げた。グラスを合わせて音を鳴らすのは、マナー違反……つて言つが、危ねえし。

高いグラスが割れ易い以前に、テーブルの中央にキャンドル灯つてるし。

三又だし。

28と16 同じ誕生日なんだから、12コ違ひは永遠に変わることなく縮まらない筈だが……数学的計算式で答えが出るほど、人生は単純じやない。

金の流れだつて、バランスシート上で貸方と借方が合致していくも、実質的にはアンバランスだ。

存在しない金が数値として瞬時に動くから……とにかく、数字は

難しい。

おれがジジイになればなるほど 紗唯との差は、離れてゆく。
若いやつの可能性を榨取してまで長生きしようとは思わないが…

…もう暫くは、金を創造する側で頑張れるだろ。

体力はそんなにねえけど、年齢的に。

…早く、仕事探さねえとな。

昨晩おれは、求人情報誌の序でに、テーブルマナーの本を立ち読みしてきた。

どっちが序でだか……書店内に流れる曲が、最新シングルヒットチャートから蛍の光に切り替わるまでの 約1時間半。

思い出せるだけ、頭の中で復唱しよう。

グラスをチンしない は、リスキーなので実践できた。

先ず、ウェイターが料理を持つて来たら……早っ！

やるな、高級。

まあ、24時間前に注文してたからね。

えーと……皿の上にクラウンっぽく飾られたナフキンを取つて二つ折りにし、折り目を手前にして膝の上に置く。

紗唯も同じように、する。

おれを手本にするだけじゃなく……周囲を模範にしながら。

「季節の新鮮野菜とシーフードと生ハム、プロヴァンス風で御座います」

固定の皿（テーブルにくつづいているわけじゃなく、テーブルクロスにくつづいているわけでもない）に、彩り豊かな皿が乗る。

当然、レディーフーストだ。

料理を出されるのが十数秒遅れたところで、何にも気にならない。だつておれは、ジェントルマンだから。

オードブル

善哉は食えないが、前菜は食える。

「きれえ」

ホントだよな。

正に、芸術つて感じだ。家の畠で作つてゐる野菜も、料理人次第では何うなるのか？

いや、赤や黄色のパプリカなんて作つてねえか。
つて言つた、料理云々以前に、うちのおかんは冷蔵庫の先入れ先出しが 止そう。

こんなことを考えてたら、折角の高級料理が愉しめない。
しかし、ホントに食つのがもつたいたいねえな。

食わなかつたら……金がもつたいたいねえか。

「キミのほうがずっと綺麗だよ」なんてセリフは、その時じれつぽつちも思い浮かばなかつた。

椎礼琉んとこのも良くてきていたが……やっぱ、一流はスゲ。あつちは雰囲気とかからして庶民的だつたから、比較するのはおかしいか。

それぞれ、目指すところが違う。

ナイフとフォークは、向かつて一番外側から使いましょつ だつたよな。

甘口ジが 上手い」と……刺さらない。

「おおいし～い」

乗つけるのか？

あ、刺さつた。

落とさないように……OK。

美味い！

「うん」

のは美味しいんだけど、おれ的にはあいつんと「のせつが……やつぱ、庶民か。

それにも、紗唯は上手に食つた。

センスかな？

センスのないやつは、固處……いや、じぶん経験を積んでいかな。

やっぱ、立ち読みだけじゃ

「ディズニーのだ」

?

クエスチョンマークがおれの額に浮かんだかどうかわからないが

……紗唯はステージのほうを向いた。

たんたんたんたんたんたんスター

たんたんたんたんたんたんたらん

ジャズっぽいアレンジになつてているが、ディズニーのだ。

ピノキオは観たことないけど……いい曲だ。

こういう知つていてる曲ばっかり演奏してくれると、ありがたい。食事の背景音楽程度で、あんまりじつくりとは聴いてねえけど。料理で嗅覚と味覚を、BGMで聴覚を、目に映る全てで視覚を満たす。

『星に願いを』か……。

『星にならないでほしい』と、願う。

「鱣鰐」

」

フ、フカヒレえー?!

料理の鉄人で見た記憶がある姿形が、透き通つたコンソメスープに沈んでいる。

スープなんだから、具なんか入つてなくともいいのに……。って言うか、中華専用食材じゃなかつたのか?ま……まあ、いいだろう。

手前から掬う。

音を立てずに飲む。

お皿は持ち上げない。

スプーンで掬えなくなつた時点で、諦める　とまでは書いてなかつたが、雰囲気がそんな感じだ。

適度に残すのがマナーか……ブルジョアだなあ。

メロンパンの端っこだけ食つて捨てる、みたいな。

……例文が、貧しい。

「おおいし〜い」

嬉しい。

おれは別に、メシなんて何でもいい。

本当の笑顔が例えホンモノじゃなくても、素直に喜べる鈍感なおれを思いつきり賞讃してやりたい。

ああ、素晴らしいかな！ 永遠なる無知よ。^{とわ}

「うめえ」

玉葱を適当な大きさにカットして茹でたお湯に賞味期限切れの固形コンソメを溶いて、森本家の台所で自分で作ったスープと比べるのもどうかとは思うが……ふかひれのトロトロに到達するまでもなく、このスープのひと口田がメチャメチャう

「クアンパア〜イ！」

つせえぞ、紗唯の後ろのバカップル！

「牛フィレのポワレです。こちらは松坂牛を使用しました」
はいはい、松坂ね。

西武じゃなくて、どつちかつてゅうと南部だね、地図上では。
別に驚かないよ、東海三県だし。

「ソースにはイタリア産白トリュフを使用致しました」
世界3大珍味ね。

豚が探すキノコの一種で 【美味】 じゃなく 【珍味】 つてどこ
が……ちょっと、微妙。

給仕の短い蘊蓄を、紗唯は真剣に聴いていた。

嫌味っぽく知識を披露するわけじゃなく、さり気なく紹介して食欲をそそるところが、プロフェッショナルの成せる技だ。
全然力んでないし。

滑舌かつぜつがキレてる。

ナイフがすんなり入る。

刺したフォークから、肉汁が溢れ出す。

封印されていた旨味が、舌の上で拡がる。

「おおいし〜い」

焼肉屋で食べるふつ〜うのカルビが一番美味しいと思つていたけど

……三重県にあつたんだよなあ、こんなスゲエ肉じろが。

テレビで聞いてるだけじゃ、口の中で蕩けるという表現が今一ピ

ンとこなかつたけど コレか！

殆ど噛まずに、消えて無くなつた。

ある意味、詐欺だ。

おれは基本的に、高級食材に好きなものはない。

松茸の香りが嫌い。

蟹の食感が好きじゃない。

鮑に興味はない。

雲丹が食えない。

イクラは以外にもロシア語。

やっぱ、牛はいいね。

日本にイスラム信者が増えれば、需要が減つてお手頃価格でお求めになれるかもしれない。

おれの財布の紐を緩ませるほどお手頃になるには、小売店サイドでかなり勉強してもらわないといけないけど……それ以前に、スーパーから牛肉コーナーが消えるか。

……飛騨牛も有名だよなあ。

そんな遠くないもんなあ。

こつちも、東海三県だし。

これぞ晚餐、って感じがしてきた。

最期の晚餐 紗唯にとつては、そつなるかもしれない。

おれにとつても、恐らくこれが最後になるだろ？。

……経済的に。

フランスパンは……あんまり好きじゃない。

味がどうこうじゃなくて、固いから。

頸はそんなに発達していないし、しゃくれてもいい。

日常の食生活から考察すると……カルシウム不足は否めない。

骨密度、ヤバい。

時間的にも経済的にも食環境的にもあらゆる面から総合的に評価すると、体に必要な栄養を充分に摂取^{あさげ}するのは不可能だから……

そのうち、サプリメントがおれの主食になりそうだ。

贅沢な食文化の中で育つているから、食を嗜好品に分類^{じいじゅひん}することができる。

何とも、幸せな限りだ。

フレンチトーストは好き。

クレイジークライマー……じゃなかつた『クレイマー、クレイマー』を初めて見た（テレビの地上波で）後、自分で作ってみた。

おかんの実家から送ってきたバター（森本家の食卓に並ぶ料理には使われないから購入^{こうるい}することはないけど、贈与^{あげよ}されるなりしたらおれがトーストとかラーメンとかで使わないとなくならない）を一欠片^{ときかけら}低温のフライパンに落として、卵・牛乳・砂糖^{さとう}を混ぜたボールに浸した食パンをすかさず火にかけ、両面を狐色^{きつねいろ}の手前くらいになるまで焼く。

ボールが空になるまで3日連続、朝食（正午前）はフレンチトーストだつた。

1リットルのパックも消化しなければならぬので、飲物はカフェオレにした。

粉末のインスタントコーヒーを少しあ湯で溶いて、アイスミルクを注ぎ掻き混ぜる。

手間がかかるので、連休の時にやつた。

50連休くらいある 大学生時代の話だ。

行儀よく手で一口サイズに千切つて、バターナイフでクリーミーチーズを塗る。

朝食のパンには、いつも^{かぶ}醤り付くけど……。

おれは食パンを耳から食べる人だ。

……いや、最初の一口目という意味じゃなくてね。真ん中を割り貫くなんて面倒臭い食い方をするやつは、殆どいないだろう。

半分に折るのは邪道だ。

まあ、そんなことはどうでもいい。

おれは新聞の折り込みチラシを敷いてマーガリントースト（バターやジャムよりグラム単価が安いから）を食う。

コーヒー（もちろん、インスタント）を淹れたカップを右端に置き、肘を突いた左手で持つたA3中央の真上辺りにあるトーストに顔を近付け、四隅の一角から^{かじ}醤る。

食い終わつたら、ぼろぼろ零れたパン屑を灰皿に捨てて広告を軽く扱う。

いい加減 親父にタバコを辞めさせたい。
体の心配をしているわけじゃない。

ベビースモーカーだったひいばあちゃんは、九拾六まで生きた。たとえ早死にして、その要因がタバコであつても、そんなことは自業自得だ。

「親切に『吸い過ぎには』注意ください」と警告もある。自己管理能力の乏しいやつがどうなうつと、知つたこつちやない。おれが言いたいのは「稼ぎがねえのに、嗜好品に金を遣うな！」つてことだ。

おれの稼ぎが消えるわけではないが、森本家からそんな物が支出項目に計上されることは、^{いがん}遺憾である。

酒・タバコは少々値上がりしても強い意志がない限り辞められなから、すぐに増税のターゲットにされる。

興味のないおれ的には、どんどんバカからの搾取を推進してもらつて構わないが、自分がそのバカの血族である事実に腹が立つ。
戸籍謄本に載つているから、恐らくこの続柄は真実だろう。

980～148円／4日～6日（ドリンク代別途）のおれに比べ、現在無職の親父は毎日、88円以上の菓子パンだ。

そうじやない日は、不確定要素の多い玉打遊戯に行く前のモーニングセット、税込み350円。

他人に金を貸しているおれのほうが、プロレタリアン・ライフを満喫している。

因みに……マンガ喫茶には、行つたことがない。

バイトをしようと思つた時期もあつたが、マンガ喫茶に、入つたことがない。

【には、行つた】と【に、入つた】が、係つてゐるわけやね。
まあ……こんな話も、どうでもいい。

上品な食べ方をすれば、屑は服とか床とかには落ちない。
皿を洗うだけで済む。

家でも外でも、それはおれの仕事じゃねえけど……。

「本日は御一方の御誕生日と伺いましたので、本田のみ御客様だけに特別のデザートを御用意させて頂きました。一度しかない今宵が、御一方の心だけに共有される良き思い出になれば幸いで御座います」
おれたちに一言挨拶してから、フロアマネージャーっぽい男性は厨房の奥へ入つて行つた。

この辺の感覚が、異質だ。

下々の人々と喜びを分かち合おうという習慣が、上流階級の人間の頭にはない。

この店内で、おれが一番【下】かもしれないってのに……。

偶然来店していたパーティション（自分の店舗を名古屋の榮に構える

専属のアドバイザーで、常駐はしていないらしい）が腕を振るつたバースチーフチケーキが、偶然12月2日に生まれたおれたちだけに振舞われた。

全体的にホワイトチョコレートムースでコーティングされた、ブルーベリーとラズベリーとストロベリーとマルベリーとビルベリーとエルダーベリーのミルフィーユ。

どんだけベリー やねんっ！

サクサクのメレンゲを台にして、アイスクリームやら生クリームやらホイップクリームやらが何層にも重なつて……食い難いつたらありやしない。

牙城にフォークを入れた瞬間 芸術は、雪崩に呑まれた。
ラストオーダーくらい、綺麗に食いたかったのに……。

同じ食べ物を同じ食べる物で食べてるのに、皿の上が空になる過程の美しさが全然違う。

がさつな姿が「男っぽい」と映ついたら、幸いだけど。紗唯は、出でくる料理全てに「おおいしそう」とコメントした。

率直な意見だから、しょうがない。

聞き飽きてはいなけれど……書き飽きたので、最後のほうはコピーして貼り付けた。

ふたりでシャルドネを一本（750ミリリットルのだと思つ）空けたところで、ちょうどコースが終了した。

ようだ。

先ほどの着付けの女性が席までやつて来て、紗唯を連行していくから。

おれもナフキンをクシャクシャにして、テーブルの上に置いた。料理……じゃなくて皿を下げるに来たウェイターに、着替えが終わ

るまでここで待つように言われた。

テーブルには、シャルドネが少し入ったおれのグラスだけが残された。

やあー、食つた食つた。

日頃の少食が幸いして、量的にも堪能できた。

料理の味覚はもちろん、視覚効果もバツチグー。

ファイブスター・ダイヤモンド賞をいつ獲つてもおかしくないような店舗の総合演出。

そして会計も超高級……。

開店早々、ミシュランの有星店評価を得るかも。

まあ、グッディヤーを履いてるおれにはどうでもいいことだけど。それ以前に、そういうことを思案する環境に全く縁がない庶民だから。

暫くして支配人がおれのところに来て、三品の真珠をビリするか訊いた。

おれは、また後日取りに来ると言えた。

彼は、それまで大切に保管致しますと言つた。

でなきや、困る。

今後、再び輝ける場所に巡り逢えるかどうかはわからないけど……。

「御会計の方で御座いますが、御支払はどのようになさいますか?」

今日もおれは、食い逃げなんてしない。

なぜなら、ジェントルマンだから。

値段は昨日訊いたので、この場で金額の提示はなかつた。

おかげで、一度も驚く必要はなかつた。

「コレって使える?」

かどうか、訊いてみた。

昨日訊くのを忘れたから。

老支配人はチーンの付いた眼鏡を外して首に垂らし、細めた目にカードを近付けた。

「マスターで御座いますね」

「あんたもね。」

「結構で御座います、はい」

一応キヤツシユも下ろしてきたけど……へえ、使えるんだ。
振られたら歌おつかなあつと思つてたのに、便所入つての間に
お色直しが終わつて、歌いそびれた。

新郎新婦はすぐにラスベガスへ発つ予定だったので、二次会もな
く……おれは結婚式の帰りに、ビックエコーで1時間歌つた。
独唱で。

それから何日か後に、オリコカード取得した。

D A Mが何の頭文字なのか、その時に初めて判明した。

「それでは、あちらへ御願い致します」

付き合い始めるちょっと前に、会員になつた。

リカはカラオケが好きだつたので、重宝した。

室料20%OFFはデカイ 何を考えてるんだ?

おれはそんなに起用じやない。

……筈だ!

おれがキヤツシャー カウンターでサインをしていくと、別
ルートから紗唯が辿り着いた。

マイク以外は、入店時と同じ姿 どう見てもジョシコウセイには見えない女性が多数在籍するお店の「が、おれの中ではこんなイメージだ。

鮮やかな口紅の赤は、全く色褪せていない。

その瞬間を、一気に通り越してオトナになつていってくれたら……
一瞬、非現実的未来予想図を描いた。

「『』ちそうさまでした」

「どういたしま

」

清水章吾とチワワが、過つた。

「ボーナスまで待ちな」と同じくらいの言葉尻になつてもつた。

振り向いたら、紗唯は店員にお辞儀をしていた。

そう言えば……おれは今までに、ボーナスが貰える仕事に就いたことがない。

本来ボーナスは会社及び個人の業績に応じて支払われる臨時賞与で、製造業でもない公務員が伸び悩む税収の中で特別手当の受給資格を有しているという不条理が、おれにはさっぱり理解できない。因みに おれが取引したことのある消費者金融は、1週間無利息ノーローンだけだ。

……今のところは。マフラーを返してもらつて、聳え立つ吸血鬼^{そび}人の脇を通り過ぎた。

昨日洗車した車は、一番上の駐車場（ビルの屋上という意味ではなく、駐車場としてのスペースの中で）に停めてある。

てつぺん取つたるとかいう意味じゃなく、用がある店に近いから。エレベーターに乗り、3Fを押してから閉ボタンを押した。

B1Fに用はない。

つて言うか、まだ営業してねえし。

……ホントに、いつかは賛成多数で可決されるのか？

まあ、ギャンブルにそれほど興味のないおれ的には、どっちでもいい。

偶に行くのは、趣味ではなく……交際費だ。

カマロに触れないようにトヨタ車のドアを慎重に開けて乗り込み、おれはエンジンをかけた。

ランボルギニーの1メートル以上前に1600ccを横付けして、紗唯を乗せた。

「おいしかつたあ

この一時で、一生遊べるプレステ2を貰えるくらいの出費をしたからな。

……1人前だけで。

「『ひつひつ』までした」

「どういたしまして」

「御粗末さまでした」という返しはできなかつた。
おれが作ったわけじゃねえし、そんなギャグを言わせない内容だ
つた。

螺旋らせんを描くように、立体駐車場を下つて行つた。

「もう1回来ようね」とは 続かなかつた。

ディナーパーティー（後書き）

「『愛読ありがとうございました。』
セックシーンが近付いてきたので【I say 〇（上）】は
とりあえず完結ということにします。
18歳以上の方は、引き続き【I say 〇（下）】を『』覗く
ださい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4848d/>

I say U (上)

2010年10月8日14時49分発行